



*A farewell to arms.  
A farewell to germs.  
What else did I say farewell to?*

*Bö-tanz XVIII*

# FAREWELL TO GERMS

*Satoshi Hanada*

# A Farewell to Germs

地上に平和をもたらすために、わたしが来たと思うな。平和ではなく剣を投げ込むために来たのである。わたしが来たのは、その人とその父を、娘をその母と、嫁をその姑と仲たがいさせるためである。そして家の者が、その人の敵となるであろう  
(Matthew, 10:34-36)

「ステリル - その発生と終焉」(折原和巳著、朝霧出版)  
- 都市管理会議により検閲・削除された箇所(抜粋)-

・・・妊娠時のホルモン処理や遺伝子発現調節により、今日ではこの種の新生児の出現の可能性は著しく低くなっている。しかし、二〇〇一年から二〇一五年にかけての一五年間に産まれた新生児の中に第二次性徴時に正常な成熟を示さない者が無視できない割合で含まれていた。当時これら不完全成熟者は「ステリル」と称されていた。

・・・ステリルの中には、風変わりな能力を持っている者が多かったと言われている。例えば、「直観像」(Eidetic Imagery)という能力である。これは「カメラ」のように複雑なものを一瞬にして記憶できる能力で、見たばかりの画面を再現したり、また、聴いた音楽を再現したりできるといったものである(当時、「直観像所有者」は《Eidetic》と呼ばれていたようである)。《Eidetic》達は言語を「直観像」としてとらえるため、一連の文章を逆さまにしたり、文章中の特定の文字を他の文字に置き換えたりして話すことができた。これがいわゆるステリル達の間で行われていた「暗号遊び」の基礎となるものであったと思われる。

・・・また、あなた方はポリグロット(Polyglot)という言葉を知ったことがあるだろうか？ この言葉は、正しくは、「数か国語を話すことができる言語の達人」を指したものであるが、当時はパソコンと端末やコンバーターを介さずに直接対話できる能力、またはそれを有する人という意味で用いられる事の方が多かったようだ。このポリグロットも「直観像」と関係があるといわれている。パソコンと直接繋がれるステリルは機械語(バイナリ・コード?)を感覚的なイメージとして認識しているといっている。色彩とか、においとか、味、そして「寒さ」や「暖かさ」などの温度で表現するのだ。そのころのステリル達はこのような特別な力を、単に「能力(ability)」と呼んでいた・・・

## 主な登場人物

北田 一馬

バイオコンピューティングシステム<KITAZAC>の開発者。ステリルによる ER21 地区襲撃竈城事件の巻き添えを食い、人質となる。頭も切れるが、なんかキャラ的に「切れてる」って感じの人。

田沢 未来

北田とともに捕らわれた、<KITAZAC>の開発の研究者。若いが、馬鹿にははいけない。かの超伝導量子干渉計「SQID」の開発者である。切れ気味の北田の愚かな行動に対し、日々切れまっくっている。

浅倉 小夜子

北田の「美人」秘書。セクシーダイナマイクだ。ただの「おばかりん」なのか、それとも…秘密めいたところもあるにはあるが、明らかに底の浅そうなキャラである。だからと言って、ナメちゃいけないよ。あっ、ナメてもいいかな…

中村 勘介

元 City Energy 社技術員。通称は「かんちゃん」。ER21 地区襲撃竈城事件の人質の一人。人質になった直後から、犯人であるステリルと心が通ってしまうという「懐の広さ」を有するビッグな野郎だ。どうやら無類の「将棋好き」らしい…

芹田 某

社会から隔離されたステリル達の人権の回復を目指し立ち上がった「武闘派リベラル」の残党。ステリル少年達を束ね、反政府武装集団「ステリル」を結成した男。集団内では「神」的な存在。

ルイ

ステリル少年兵のリーダー的存在。実質的軍事参謀(戦術)と言ってよい。神を信じ、芹田を盲信し、最近では将棋にはまりまくっている…

ケイ

ステリル少年兵。「直感像所有者」すなわち《Eidetic》である。ルイのことが好きなのかもしれないが、その辺りの真相は本人とて分からない。

ハル

ステリル少年兵。電腦と端末を介さずに直接対話できる能力を有するポリグロット(Polyglot)である。その脳髄は高い演算/分析能力を示すと言う。

コウ

ステリル少年兵。戦闘部隊の切り込み隊長。五〇口径のブローニング機銃を構えて、どんなものでも一瞬で破壊してしまう。ちなみにM2ブローニング機銃は自重だけで三八kg、それに、五〇口径のカートリッジ一〇〇個を抱えて最前線に立てるこいつは一体何者だ？

リョウ

ステリル少年兵。ガッツのあるマイト・ガイだ。戦闘において一切恐怖心を抱かないというが、銭湯では多分に用心深い。幼年期に公衆浴場にて転倒し、したたか後頭部を床に打ちつけたのが原因のようだが…

ユウ

ステリル少年兵。心優しき慈愛のステリル兵士。ルイと同じ収用施設の出身。戦闘時には、別動部隊の指揮をとること多し。ER21 のサッカーのポジションは常にフォワードであり、得点王でもあるのだが、それを自慢することも無いという奇特なお方。

カズ

ステリル少年兵。馬鹿っぽい…って言うか、真性の「おばかりん」ではないかと、ときおり不安になってしまう。単純な上に「のりやすい性格」ゆえ、周りのみんなに「いじられて」しまいがち…

・・・受付を済ませ、階段を下っていく。壁面のいたるところにポスターが貼られている。政府広報のやぼったいポスター・・・

*Geo-front ER21 [Eco-friendly Residence the 21st century]*

環境調和型大深度地下居住区 ER21

完全自立型地下都市

- ・最高基準のグリーン・ファクトリー／安全な食料等の自給自足
- ・ゼロエミッション／ゴミゼロを達成したニュー・リサイクル・プロセス
- 環境汚染物質混入の心配がない徹底した環境維持管理システム
- ・光触媒利用によるACC空気清浄装置
- ・深層地下水を逆浸透膜濾過

・  
・  
・

環境汚染物質の大規模な漏洩により海も空も死んでしまった。内分泌攪乱物質の蔓延はすでに人類の未来を奪い去るところまで来ている。人類は安全な地下都市に蟄居し、その間に地表面の環境を浄化しようと言うのが、政府が脳死直前の脳髓から捻り出した「最善策」であった・・・

Geo-front ER21 は試験運用のために建設された地下居住地区だ。二〇〇人の人間を収容出来、居住者は外部との交渉無しに独立して生活を営めるようになっている。すでに工事は終了し、入居者を待つばかりと言ったところだ。

今夜、ここで ER21 の完成披露パーティーが行われることになっている。この扉の向こう、ER21 レセプション・ホールで・・・

扉を抜けて会場へ入る。もうすでにたくさんの参加者が集まっているようだ。

空いている席を見つけて、腰を下ろす。

赤い別珍の袖幕。高級感だけはあるが、これと言って何の魅力もない講演会のような舞台。その中央には白い大きなスクリーン

投影されている映像は・・・ 地下居住区 ER21 のコンピュータ・グラフィクス。俺からみれば「ちょっとやりすぎ」って感じ・・・

「ようこそ、環境調和型大深度地下居住区 ER21 へ！」

「完全自立型地下都市 自給自足の安全な食料 ニュー・リサイクル・プロセスによりゼロエミッションを達成！」

なんて売り言葉が映像中を飛び回ったりして・・・

と、舞台袖にナビゲーターのおねえちゃんが現れる。近未来的(?)衣装を纏い、頭にヘッドセットなんかしちゃったりして・・・ 手に「魔法の杖」みたくの持ってるぞ！ あっ、レーザー光線が出た。お前、この杖ポインターかよっ！ それもレーザー、緑色かよ！ アルゴンレーザーって危険だろ！ と、心の中でバカル・・・いや、さまーずの三村風に突っ込んでみるが、虚しくなるだけだ・・・ まあ、いいか。変な衣装だが、てきとーに露出度あるし、ねえちゃんの笑顔もまあまあなんだし・・・

ナビゲーターが深々とお辞儀をする。ヘッドセットのマイクを通して「舞台慣れし過ぎてる」って感じのおねえちゃんの声が会場に響きわたる。

ナビ ウェルカム・トゥ・ER21、環境調和型大深度地下居住区 ER21 へ、ようこそ！ 本日はお忙しい中、ER21 地区完成披露レセプションにお集まりくださり、まことにありがとうございます

ます。本レセプションのナビゲーターを勤めます、牛頭巖子です。よろしくお願ひいたします。現在会場でクラッカーの上にキャビア(偽)をあしらった簡単なオードブルと梅昆布茶をお配りしております。勇気のある方は是非お試しください。

客席を白いドレスシャツに黒い蝶ネクタイ、カーマーベルトという出で立ちの二名の給仕が、銀盆なんか手にして、うやうやしく歩き回っていたりする… あれがキャビアかよ！それも偽かよっ！興味はあるけど、受け取る勇気ないな。なんか恥ずかぴーし… あっ、オードブルに手を出した奴がいる！何て恥知らずな、いや、勇気のある人なんだ…

ナビ では、そんなオードブルによく合う映像をお見せしながら、この ER21 のご説明をさせていただきます…

映像が投影される。魚の映像。それも、汚い浜辺に漂っている死んだ魚の、腹を上にして、得体の知れない黴に身体の表面を冒されている…

ナビ ……魚も泳がない死せる海、汚れ切った都市の空気、そして有害物質を多量に含む水道水。これら毒素はゆっくりと、しかし、確実に私たちの体を蝕んでいます。汚染物質による環境の悪化はもはや許容出来る範囲を超えてしまっていると言っても過言ではないでしょう。

ナビの言葉に呼応して、環境汚染をイメージさせるいやーな感じの写真がスライドのように次々と映し出される……そして後、再び ER21 のコンピュータ・グラフィクスに戻る。

ナビ ……政府は打開策として地下都市の建造を開始しました。極めてクリーンで安全な地下環境を作り出し、人々はその中で有害物質の攻撃に曝されることなく生きていく。その間に地上ではコンピュータ制御された化学プラント複合体により、大規模な環境浄化が行われます。当然、完全自立型の浄化システムによってです。これが政府の打ち出した地球再生プランです。試算では、約五〇年で地球環境の完全浄化が達成されるとされていますが、とにかく、人類の歴史の中でも最大規模の事業といえるでしょう。人類の未来のためだけではなく、このかけがえのない地球のために、私たちは地下に移住するのです。ここ ER21 はこの大事業に先駆けて試験的に建設された大深度地下居住区です。完全自立型の地下都市であり、二〇〇人の住民の食料を、理論的にはですが、百年にわたり間断なく提供し続けることが可能です。また、徹底したリサイクル・プロセスにより、ゴミ・ゼロ、すなわちゼロ・エミッションを達成いたしました。その上、ER21 の光触媒利用によるACC空気清浄装置、深層地下水の逆浸透膜濾過による給水など卓越した環境維持管理システムは環境汚染物質混入の心配がまったくない安全な生活を居住者に約束します。この夢のような地下居住空間を実現させたのは、やはり人類の英知であるATすなわちアドバンスド・テクノロジーに他なりません。特に最先端技術の集合体とも呼ばれている、かの City Energy 社の貢献を疑う者は一人としていないことでしょう。環境維持管理システムの開発、食物生産工場であるグリーン・ファクトリーの製作のみならず、地下都市全体にエネルギーを供給する地上部の原子炉、イプシロン・リアクター、そしてその全体を制御・管理する巨大電脳 KITAZAC の設計まで City Energy 社が行ったのです。また、この地下空間をこのような短時間で建設出来たのも同社の自走式地下掘削シールドマシン「おっきなみみず君3号」であったということも忘れてはいけません。本日は「おっきなみみず君3号」の開発に携わりました City Energy 社の山辺部長をお呼びしております。レセプションの半ばに山辺部長からスピーチを頂くことになっております。「おっきなみみず君3号」の開発に関わる苦労話や自分の娘には口が裂けても言えない秘密など、珍

妙な語り口でお話しくさることでしょう。

ナビゲーターの説明に対応するかのようには、画像は様々に切り替わっている… ACC 空気清浄装置、浄水システム、原子炉、自走式地下掘削シールドマシン…

ナビ さて、ここ ER21 地区への入居は一月後の予定ですが、居住者の選考の方ははすでに終了しております。只今、幸運な居住予定者の方と回線がつながっていますので、歓びの声をお聞きしましょう。…城西地区にお住まいの矢作さんご一家です。矢作さーん？

画像スクリーンに矢作一家が登場する。赤ちゃんを抱いた女性と男性である。満面の笑みを浮かべている。当然、歯茎も全開だ。画像には以下のテロップがスーパーインポーズされている。

<爆裂ラッキーファミリー 矢作さんご一家（城西地区在住）  
マサヨシさん(三五)、スミエさん(ないしょ)、マサトちゃん(七ヶ月)>

マサヨシ はい。

ナビ 矢作さん、この度はおめでとうございます。

マサヨシ ありがとうございます。ほんと、当選するなんて思っていませんでした。ほら、あんまりくじ運いい方じゃないから…

画面下に矢作さんご一家の答えが同時に文字としてスーパーインポーズされているのが、変と言えば変だが…

スミエ ロト6だって数字ひとつも当たったことないんですよ。

ナビ ほんとにラッキーファミリーですね。どうですか、地下都市への入居に不安なんかありませんか？

マサヨシ 不安なんか滅相もない。心の底から喜んでますよ。ER21 はクリーンで安全な居住空間ですからね。環境汚染の影響が皆無だしね…

スミエ そう、エコロジーに関してははず一と関心を持っていましたけど、マサトが生まれてから汚染物質の蔓延に関してますます不安になったって言うか…

マサト あー、あー…

マサヨシ 特に内分泌攪乱物質ですね。今でこそ妊娠時のホルモン処理や遺伝子発現調節があるので、そんなに問題はなくなりましたけど。いまでもたまに出てくるんでしょ？ ほら、何て言ったけ、正常な大人になれないの…

スミエ ステリル？

マサヨシ そう、それ！ どんなに気を付けていたってここで暮らしている限り少なからず影響はあるんでしょ？ 僕らはいいいとしても、マサトのことを考えると気が気じゃないって言うか…

マサト あー、あー…

マサヨシ とにかくマサトに関しては神経質ほど気を使っていますよ。ミルクの水とか部屋の空気の浄化とか… でもね、心配の種は尽きないっていうか… ほら、マサトってこの界限でも一番可愛いじゃないですか。こんな可愛い子がですよ、発育異常なんか起こして差別されることになったりするの耐えられませんかからね… その上、それが原因でテロ組織に加わってしまったら、僕はどうしていいか分からなくなっちゃうでしょ…

ナビ (小さな声でだよ、小さな声) 親馬鹿…

マサヨシ ばかっ？

ナビ そ、そうですね。バカにはできませんよね、新生児に対する汚染物質の影響は… でも、この ER21 なら大丈夫です。何の心配もありません。はい、ありがとうございます。では、大変だとは思いますが、入居の準備の方がんばってくださいね…

マサヨシ あれ、もういいですか？

ナビ はい、爆裂ラッキーファミリー 矢作さんご一家でした。  
マサト あー、あー…

唐突に「矢作さんご一家」の映像が切断され、映像が ER21 のコンピュータ・グラフィクスへと切り替わる。

ナビ ……本当に幸運なご一家でしたね。今度はロト6も当たるんじゃないでしょうか。四等ぐらい… さっ、続きまして、ER21 の環境管理システムを統括する巨大電脳 KITAZAC の製作の総責任者であります北田一馬博士より、「バイオコンピューティング・システムの構築とメモリーベース・アーキテクチャー」という小難しい演題で、そんじょそこらの「ぬけさく」には千分の一も理解出来そうにないってな感じでお話ししていただきます。では、北田博士よろしく願いいたします。では、皆様、盛大な拍手をもって…

ナビゲーターが演者を迎えようと拍手をしようとした刹那、客電と舞台上の明かりが明滅し、そして消光する。次いで投影されていた映像が電源でも落ちたかのように消失する。非常用の照明だろうか？ 薄暗い黄ばんだ明かりがナビゲーターを照らしている…

ナビ ……あら、どうしたのかしら？ お客様、そのまましばらくお待ちください。(マイクに向かい) 配電室？ どうしたの、サーキットブレーカーでも…

ふと、客席から声、「よかったよ。つまらねえ電脳の話まで、聞かされるどころだったぜ。」そして、もうひとつの声、「ああ、そうだな…」

声の主は、何と給仕達であった。舞台上から給仕達の立つ客席通路を照らすサスがその声に応えて明るくなっていく。

給仕達、隠し持っていた拳銃を引き抜き、天井に向かって撃ち放つ。

悲鳴を上げうずくまる、ナビゲーター。

給仕達…いや、蝶ネクタイを外し、ドレスシャツを脱ぎ捨てた彼らは、ステリル兵士のルイとリョウだ。彼らの声が轟く。

「動くな！」「レセプション会場は我々ステリルが占拠した！」

「エズオリィ イネダフ」「イエコオ」

その声に答えるように

Tourniquet / Marilyn Manson

が耳を弄する音響で流れ出す。

客席後方で鉄が噛み合う音！ コッキングピースが引かれたのだ。見ると、自動小銃を構えた十人ほどのステリル兵士が客席の後ろに立っている。明滅する逆光の中、会場を走査するかのように移動する目も眩むサーチライトの中、ゆっくりと舞台に向かって歩き出す…

たまらず逃げ出す、ナビゲーター。

と、真っ黒な投影スクリーンに白抜き文字の伝聞が次々にタイピングされては、明滅し消失していく…

コウ>中央警備室制圧。

ユウ>厨房内の安全を確認。

ルイ>レセプション会場制圧。応援えう。

ハル>セキュリティ・システム支配完了。

セリタ>全室を走査せよ。

ハル>走査完了。北西部に武装警護部隊。

カズ>警護部隊五人を確認。

セリタ>撃退せよ。

ケイ>東ウイングの安全を確認。  
カズ>警備部隊、退却。  
セリタ>ER21 地区全域を完全制圧！

・  
・  
・

画面が揺らぎ、ニュース報道の画面に切り替わる。音声は聞こえない。上気したようなアナウンサーの顔。突然入ってきた原稿を読み上げているようだ。画面下の「多重文字放送」の部分に以下の文章が流れている…

<ER21 地区で銃撃発生か？> ノイズ、画面が傾く。

不意にプログラムが切り替わる。別のアナウンサーの顔。鎮痛な面持ち。

テロップ、<ER21 地区完成披露レセプション会場襲撃さる>

戦闘服を着た男の写真。「ステリル」の指揮官、芹田の姿である。その画質は、隠し撮りのためか、極めて悪い。

その写真の横に、本棚を背に熱っぽく語るおっさんが出現。同様に音声は聞こえない。画面右下にスーパーインポーズ、<軍事評論家 近衛 守> 手を振り回し、唇から泡を飛ばし、まくし立てる。と、唐突にストップモーション。画面に幾筋ものノイズが走り、そしてサンドノイズ…

プログラムがまた替わる。女性アナウンサーが登場。芹田の写真。テロップ、<ER21 地区人質籠城事件> 「文字放送」で、<…すでに十四日が経過。人質一〇三名の安否が気遣われる> 面白い髪型の男が、腹の立つほど落ち着き払って何か言ってる。画面右下にスーパーインポーズ、<帝都大学社会学教授 一ノ坂 博貴> 画面上にフリップ。<二〇〇一年から二〇一五年にかけての十五年間に生まれた新生児の中に第二次性徴時に正常な成熟を示さない者が無視できない割合で含まれていた。「ステリル」とはこれら不完全成熟者の総称(蔑称)。> 新たなフリップ。<テログループ「ステリル」による過去の事件 六・二二 備蓄弾薬強奪 七・九 堀越電子社長誘拐未遂 十一・十二 三島官房長官邸襲撃…>

ノイズの混入…

画面三度替わり、男性アナウンサー。テロップ、<ステリル、人質の半数以上を開放>、<難航する直接交渉、未だ出口見えず>、<籠城、三十三日目>、…

客に銃口を向けたまま、後ろ向きに舞台上に登って行くステリル兵士たち。

画面は再びサンドノイズになる。

サンドノイズの中、痙攣でもするように揺らぎながら、文字が浮かび上がってくる…

銃弾の発射音！ スクリーンに穿たれる弾痕。

そして、二発目、三発目と矢継ぎ早に撃ち込まれていく弾丸…

スクリーンが裂け、青白い炎を上げ、消失する。

舞台上のステリル兵士たちの退場とともに、両脇の(講演会風の)書き割りが両袖に開き、舞台の全景が明らかとなる…

…そこは古ぼけたカテドラル。

正面に大きなステンドグラスがはめ込まれている。

薄っぺらな表情の聖者の描かれた、安っぽく、そして稚拙なステンドグラス。

悲しいほどに陳腐な、そのステンドグラス。

そして、その手前に立ち尽くしている人影。

その色硝子に濾過された光が灰かにその姿を浮かび上がらせている…

暴力的な大音響が徐々にフェード・アウトしていき、やがて途切れる。

01 On the 99th day

スタンドグラスの手前に立つ人影。  
その輪郭だけの曖昧な姿を、一本のスポットが正面からぶち抜く。  
さっとハンドマイクを構えて、落ち着いた口調で話し始める。  
そのマイクには CNN / City News Network のロゴ。ケーブルテレビの記者、料治直矢  
である・・・

料治 ……テロリストグループのステリル達がレセプション会場を占拠してもうすぐ百日目を迎えようとしています。こんにちは、City News Network の料治直矢です。今、わたしは廃墟と化したカテドラルの中にいます。そうです、あの開放ゲートのあるカテドラルです。当局の寛大なるご厚意により、初めてテレビカメラがこのカテドラルの中に入ることが出来ました。ごらんください。これが「開放ゲート」です。ステリル達によりすべてのエレベーター・シャフトが破壊されてしまった今、この開放ゲートだけが占拠された ER21 地区と地上とを繋ぐ唯一の懸け橋なのです。ごらんの通りゲートと呼ぶにはあまりにも汚く、狭い…… 言うなれば瓦礫だらけのただの穴ぼこのようなものです。その上ステリル達により様々なブービートラップが仕掛けられているようです。ここにいる武装警護部隊の勇敢なる兵士たちですら入り込むことは出来そうにありません。この狭い通路を使って、ER21 地区からすでに八九人の方が開放されていますが、未だ十数人の人々が人質として囚われたままです……

ふと気付くと、舞台脇に一人の男が座っている。何かを凝視しているようだ。この人が北田一馬である。袖から一人の男(田沢未来)がひょっこりと現れ、北田に声をかける。

未来 ……SQID のコンバータにやはり異常はありませんでした。かなり綿密な…… なにやってるんですか、北田さん？  
北田 んっ？ 料治さん見てるの……  
未来 「りょうじさん」って？

未来が北田の凝視していたものを、どうやらモニターらしいが、見つめる。  
料治が舞台後方に移動しつつ、言葉を継ぐ。

料治 ……人質の中にはバイオコンピュータ研究の第一人者である北田一馬博士も含まれています。北田博士は地下居住地区を管理するための巨大バイオコンピュータ、KITAZAC の製作総指揮を……  
北田 (モニターを指さし) あっ、俺、俺！ 俺がテレビに出てる！  
未来 北田さん、これ！  
北田 そう、ケーブルテレビ……  
未来 ケーブルテレビって…… (モニターから繋がっている長いケーブルを伝って繋がっている先を見付けようとする) あー、あー、こんな長い光ケーブル繋いじゃって……  
北田 ……ああ。この写真五年前の受賞講演の時のじゃん！ (ちょっとげんなりして) 太ってたな、俺、この頃。これじゃあ、ただのコンピュータ・オタクの「あぶらでぶ」じゃん！ かんべんしてくれよお、よりによってこんな写真……

未来が「どっせい」と気合いを入れ、一気にケーブルのコネクションを(綱引きみたいに)引き抜く。  
「ぷっつ」というノイズを残し、くるりと回転し消え去る料治。

北田 (モニターにしがみつき、叫ぶ) あーっ！ 料治さん！ 料治さあーん！  
未来 料治さーんじゃないってーの！ (ケーブルの先端に付いた通信用基盤を示して)ねえ、何、この通信用ボード？ 何の基盤流用したの？ それもこの半田付け、ちょーへたくそだし…

北田 未来君。そのボード今すぐ戻して。いいところなんだからさ…  
未来 こんなどころ奴等に見つかったら、どうなると思ってるの？  
北田 ただのケーブルテレビじゃん…  
未来 ケーブルテレビはただの娯楽じゃないでしょ？ 双方向通信が可能なんだから…  
北田 インタラクティブか！ じゃあ、ここに居ながらにして、テレビショッピングが楽しめるね。「アブなんとか」とか、こうゆう感じの(きつと、腹筋鍛える特殊な器具のことと思われる)買えちゃうね。

未来 誰が届けるんだよ、おっさん。クロネコヤマトのドライバーだって睡眠時間は削っても、命まで削ろうって豪気な奴はいねえだろっ！ …ってそんなことじゃない。とにかく、これは奴等に内緒で外部と交信しているのと同じことでしょう。見つかったら、「今夜、食事抜き！」じゃ済まないですよ…

北田 そうかな…  
未来 そうなの！  
北田 まっ、とにかくボード繋いで、料治さん見ようよ、料治さん…

未来君、そんな北田に怒り爆発しちやっみたい。通信ボードを板チョコみたいにばりばり食べ、光ケーブルうどんみたいにすすっちゃって、あげくの果てはモニター床に落として、精神統一の後、真上から正拳突き。「ぼんっ」という情けない音をたて、煙を上げるモニターの残骸…

北田 あーっ！ なんてことを…  
未来 …証拠隠滅です。  
北田 (モニターの残骸に駆け寄り、頬擦りしたりして…) モニター、わたしのモニター…  
未来 少しは、俺の胃腸の方も心配せえや、おっちゃん！  
北田 なんてことをするんだ。君には分からないのか？ モニターの悲しみが… それと家電リサイクル法とかも…

未来 …北田さん、いいですか？ 我々がなんであるか、思い出してください。  
北田 著名なコンピュータ学者の北田一馬博士と優秀な特別研究員の田沢未来博士じゃないか。  
未来 いえ、我々は今、単なる人質なんです…

と舞台袖から、がさつな女の声…  
「なんだっつーんだよ！ 便所の中までついてくることはねえだろっ！」  
二人の女が現れる。北田博士のセクシー秘書、浅倉小夜子(通称、さよちゃん…誰も呼んではくれないけどね)だ。こいつに自動小銃突きつけているのはステリル兵士のケイである。

浅倉 それに自動小銃突きつけてさ。そんなもん向けられてたんじゃ、出るもんも出ねえだろ！  
ケイ これは上からの指示なの。あなたに不穏な動きがあるということで、警戒せよと… それにトイレの中で一時間近くも…

浅倉 トイレの中でどんな不穏な動きができるつーのかな、この人は。あたしゃ、ただクソひり出そうとしてただけだろっ。クソだよ、クソ！

北田と未来の刺すような視線に気づき、しなを作る浅倉ちゃん…

浅倉 あら、いつの間にコンピュータールームに戻っていたのかしら・・・  
北田 く・そ？  
浅倉 嫌だわ、先生。く・そ、うふっ・・・(つて、とっても可愛く言ってみる)  
未来 可愛く言っても、だめだと思う・・・  
浅倉 も一つ、未来君ったら・・・  
未来 浅倉さん、身から出た錆でしょ。あなたがもう少し、規律を守って・・・  
浅倉 規律？ ちょい待ち。テロリストの押し付けでしょ。  
未来 いいですか、我々は人質なんですよ。  
浅倉 未来君。君は何て従順な羊ちゃんなの？ あっ、そうか、未来君、わたしよりこの子の方が好きなのね・・・ いい歳こいても、出るとこ出てない、引っ込むとこ引っ込んでない、こんな奴が好きなのね。はっ！ もしかして君ってロリロリ？  
未来 やだな、「ちびっこ好き」って言ってくださいよ。  
北田 み、未来君？  
未来 ちょっと浅倉さんにのっただけです。  
ケイ ...撃ち殺していいかな、あなたたち。

ケイの言葉のあまりの冷たさに「すみません」と素直に謝るバカ三人。

ケイ いい、北田博士。あなたにはやらなければいけないことがあるでしょう。このバイオコンピュータ KITAZAC のメンテナンスを続けなさい。急を要するの。分かっているでしょう。この地下居住区御自慢の食物供給システム、グリーン・ファクトリーの状況はどんどん悪くなっていった。腐敗の拡大が急速に進行してるの。このままでは・・・  
北田 やがて、食料が尽きる。  
ケイ そして、あなたたちも死ぬことになる。  
浅倉 その時にはきっと、武装警護部隊が・・・  
ケイ いい、私たちは死を恐れない。あなた方と私たちは一蓮托生、私が死ぬときはあなたが死ぬときよ・・・

浅倉がくっつかかろうとするのを、未来が制する。

未来 ...奴等は、本気だ。  
浅倉 ふんっ・・・  
ケイ 博士、グリーン・ファクトリーの腐敗拡大の原因はそれを管理しているKITAZAC自身にあるんでしょ？  
北田 ああ、解析はすでに終了しているんだが・・・  
ケイ 原因解明できたってこと？  
北田 たぶん・・・  
ケイ たぶん？  
北田 解決への糸口をつかんだような気がするんだ。ついさっきね・・・  
未来 ついさっきって、お前、ケーブルテレビ見てただけだろっ・・・あっ！（口滑っちゃった！）

未来と北田、顔を見合わせ、唇に指を立て、「しー、しー」

ケイ どうした？  
北・未 こっちの話・・・  
北田 ...とにかく、原因はコンピュータの構造上の問題ではないかなって考えているんだ。  
ケイ 構造上？  
北田 このコンピュータには異質な二つの演算システムが混在している・・・  
未来 デジタルとアナログ・・・

北田 そう、プロセッサベースとメモリーベース、二つのアーキテクチャ。  
未来 どちらにも障害らしきものはまだ見付かっていない・・・  
北田 だから、そのどちらにも障害らしき障害はないと仮定すれば・・・  
未来 アーキテクチャ間のリンキング？  
北田 ご名答。未来君に三億五千万ポイント！ 問題は、その繋ぎ目、繋ぎ方・・・  
未来 いつ気が付いたんですか？  
北田 だから、さっき。ケーブルテレビの通信ボード半田で繋いでた時・・・って、あっ！  
北・未 (唇に指を立てる)  
浅・ケ おい、なんのこっちゃ、わからん！  
北田 分かり易く言えば、ひとつの家の中で夫婦が仲たがいでいてしまい、それを気に病んだ息子の学校の成績が悪くなっちゃったって感じか。  
浅・ケ やっぱり分からん・・・  
北田 分からんか・・・

そう言って、幾度も顔く四人。

ケイ (浅倉に) 何故お前も理解できない？ 彼らの仲間だろ？  
浅倉 あたしは学とかあんまりないも一ん。博士の「美人秘書」なだけだも一ん・・・  
ケイ 自分で「びじん」言うな！  
北田 (ケイに) 君達に折り入って相談があるんだ。芹田に話を付けてくれないか？  
ケイ 芹田「さん」・・・  
北田 そう、芹田「さん」にお願いしたいことがある・・・  
ケイ だから、なに？  
北田 とにかく、こっちへ・・・ 未来君、君の SQID が問題を解決するかもしれない・・・  
未来 SQID!?

北田に導かれるまま、未来とケイが退場する。  
浅倉も理解できぬまま、行動を共にする。なぜなら、「寂しがり屋さん」だからだ・・・

## 02 Queerly-flavored cooking

舞台上にわらわら集まってくる人々・・・  
リョウとユウ、ハンバーガーのようなものをパクついている。

リョウ (ハンバーガーらしきものに鼻を近づけ)・・・にしても、ほんとに臭えよな。  
ユウ (頬張って)ん？  
リョウ お前平気なのかよ、この臭い・・・  
ユウ しょうがないだろ。これしかないんだから・・・  
リョウ ほんとにお前はよい子ちゃんだよな・・・ (ハンバーガーらしきもののバンズらしき部分をめぐり上げ) うわっ、こりやまた食欲を大きく減退させる色合いだな・・・  
ユウ 中は覗くなって。色は味とは関係ないんだから・・・  
リョウ 分かってるよ。だけど、この腐敗臭って一のが・・・

舞台脇に現れたルイと中村勘介(かんちゃん)。中村はハンバーガーのようなものをがつがつ食っている・・・

中村 ...メルカプタン。  
リョウ なんだって？  
中村 メルカプタンって言うんだよ、その臭い。ガスに加えられる物質だ。漏れたときにすぐ気付くようにさ・・・  
ユウ そういえばガスの匂いだ、これ。  
中村 ちょっとの量で、ものすごく臭い。裏を返せば、臭いはきついが、混入はごく微量って訳だ。気にせず食え。  
リョウ んなこと言ったって・・・ なんつったけ、この臭い？  
中村 メルカプタン。  
ルイ (将棋盤をのぞき込んでいるが、不意に顔を上げ)なんでも知ってるんだな、かんちゃん。さすが、City Energy 社員だね・・・(ぱちっと、駒を打つ)  
中村 元。  
ルイ 元って、いつ辞めたわけ？  
中村 心情的にはもう止めてるの。もし、半日ここから出ていいって言うんなら、辞表叩きつけてくるところだ。(ぱちっと、駒を打つ)  
ルイ (将棋盤を凝視して)そ一來るか・・・ で、辞表叩きつけて、またここに戻ってくる気？  
中村 当然だろ。  
ユウ 開放されたのに、また人質に？  
中村 俺は人質なんて思ってりやしない。どっちかって言うとお前らの仲間だよ。  
リョウ ほんと変なおっさんだな、かんちゃんは・・・  
中村 おっさん言うな！ お前とそんなに離れてないだろ。

背後にコウとカズ。コウは重機関銃(M2 Machine Gun)を手入れしている。カズは、ヘッドホンで何かを聞いているようだ・・・

ユウ カズ！

カズ、ヘッドホンから流れる音楽に夢中で気付かない。コウがカズの頭を小突く。

カズ (ヘッドホンを外し)痛って一、何すんだよ、コウ！  
コウ (顎でユウを示す)

カズ (振り返り)なに、ユウ？  
ユウ カズ、お前食べてないだろ。(と、ハンバーガーらしきものを放る)  
カズ (受け取るが、投げ返す)いらぬ。だって、臭いんだもん…  
リョウ だよなー。  
中村 カズ、きちんと食っとけ。ちゃんと栄養つけないと、エースストライカーにはなれんぞ。  
ユウ (また、カズに投げて) そうだ、カズ。ちゃんと食え。  
カズ (受け取るが、困った顔)  
中村 かんちゃんなんか、三つも食ったぞ。  
リョウ これ三つも食ったんかい！  
ユウ それにリョウだって、ちゃんと…(と、リョウを小突く)

リョウ、しょうがなく手に持った「それ」を口の中に突っ込む。口の中ぱんぱんだが、にこやかな笑顔でカズに向かい親指を突き立てる。

ユウ リョウ、おいしいよな、なっ。  
リョウ (何度も頷く)  
ユウ ほら、リョウだって、おいしいって言ってるぞ。こんなきらきらした目で…  
リョウ (ユウ、これは「涙目」だって…)  
カズ 分かった。ちゃんと食べるよ。(鼻を摘まんで、口に運ぶ) あーあ、早く直んないかな、グリーン・ファクトリー…  
リョウ (何度も頷く)  
ルイ 直るさ。北田博士が直してくれるよ。  
中村 あの北田って野郎。ほんと大丈夫なんだろうな。真剣に直す気あるのかな…  
ルイ 大丈夫だろ。奴だって、こんな臭い食べ物毎日食うのはごめんだろうし…  
中村 でも、奴は人質だぜ。言うなれば、俺たちの敵だろ？  
ルイ あんたも人質だろ？  
中村 (ふと気付くと泣いてる)…どうして仲間だと思ってくれないんだよ。しくしく…  
ルイ いい歳して、泣くな。(ぱちっと、駒を打つ)  
中村 しくしく…(ぱちっと、駒を打つ)  
ルイ 泣いてるわりに、良い手を打ってくるね…  
中村 はっはっは…しくしく…  
ルイ 笑ったり泣いたり大変だな…  
中村 しーくしくしく… ぼくだけ仲間外れなんだもーん。たまには「逆さ言葉」で会話したりしてさ…「イエコオ」とか…  
カズ 「イエコオ」はOKって意味だよ… 音声データの逆回転さ。  
中村 ぼくはステリルじゃないから、逆回転を瞬時に認識できないもの…しーくしくしく…  
カズ 泣くなよ、かんちゃん。分かったよ「逆さ言葉」禁止にするから。それに、ぼくはかんちゃんのこと仲間だと思ってるよ。  
中村 そういつてくれるのは、カズだけだよ。おーい、おーい、おーい…(呼んでるんじゃなくて、号泣してるんだよ)  
カズ 泣き虫さんだな… じゃあ、元気の出るヤツ、聞かせてあげるよ…

カズ、ヘッドホンを首から外し、かんちゃんの耳にかけ、んでもって、音量を最大に上げる…  
漏れ聞こえるパンクな音。痙攣する中村。

中村 (やっとのことでヘッドホンを外し) なんだこりゃ！  
カズ パンクだよ。昔のビート。元気出るでしょ。  
中村 元気出るって言うか。こんな音量じゃ死人でも跳び起きるだろ！ お前いつもこんなのを

聞いてるのか？  
カズ うん。集めてるんだ、コウのために…  
中村 コウのため？  
カズ コウは凄いんだ。この五〇口径のブローニング機銃を構えて、装甲車にのっかってるこんな重い機関銃構えて、どんな障壁だって一瞬のうちにぶっ壊しちゃうんだよ。弾幕張ったら、誰も近づけないんだ。戦っているときのコウはいつもコムをつけてる。でもね、コウのコムは通信機なんかじゃなく、いつもビートが鳴り響いてるんだ。  
中村 ビート？  
カズ だから、パンク。それもこんな風にクールなヤツ。大昔のディスクとかから回収された古くて、でも、いかしたヤツ…  
中村 戦闘中に大音響で音楽を？ おい、そんなことしたら…  
ユウ ある種のビートがコウの脳髄を刺激して活性化するらしい。活性化された状態であれば目をつぶったままで、敵の銃弾を避け、障害物をすり抜け、目標に到達できる。  
リョウ そう、目や耳じゃなく、肌で感じるんだ。気配って言うの？ そんなの…  
ユウ 物でも人でもその気配を頭の中で映像化できる…ステリルの中でもかなり特殊な方の能力かな…  
カズ ステリルの中にはそんな能力を持つてるのが、たくさんいるでしょ。ハルは自分の脳で直接コンピュータと話が出来るし… 何て言ったけ？  
ユウ ポリグロット。  
カズ そう。  
リョウ それにケイなんか、カメラアイだしな…  
中村 カメラアイ？  
ユウ 直感像ってヤツだよ。見たものを映像として一瞬の内に記憶しちゃうってヤツ…  
中村 ああ、そういえば、ケイは凄い記憶力を持ってたな。  
リョウ まあ、コウのも、そんな能力のひとつなんだ。(コウに)なあ？  
コウ (頷く)  
カズ 凄いでしょ、ステリルって。  
中村 ああ。で、カズの能力はなんなんだ？  
カズ ぼくの…  
中村 うん。  
カズ (悩んじゃう)うーん。  
中村 悩むなよ。もしかして…  
コウ クールな、ビートを、見付ける能力…  
カズ そうだ、それ！ ぼくはコウのために、コウが気に入る音楽を見付けることが出来る。それがぼくの能力。(コウに)ねっ？  
コウ (頷く)  
ルイ ……かんちゃん、お取り込み中まことに申し訳ないんだが…  
中村 ん？  
ルイ さっきの一手、「待った」してくんない？  
中村 将棋に待ったなし！  
ルイ そこをなんとか…… これじゃ、投了するしか…… (土下座して)お願い…  
中村 お前、何土下座してるんだ。それも人質に向かって…… 芹田さんが見たら泣くぞ。  
ルイ じゃあ、「待った」ってことで……(と将棋の駒を戻そうとする)  
中村 (制して)将棋に、待ったなし。  
リョウ ええかげんな性格のわりには、そういうとこだけしっかりしてるのね…  
中村 ええかげんで悪かったな、リョウ。

と、唐突にコウが機銃を抱えて立ち上がる。  
皆、身構える。

ユウ どうした、コウ？  
コウ (にっこり笑い)…サッカーしよう、サッカー。  
中村 やるか！ ルイ、どうする？  
ルイ やれば。(将棋盤を持って、立ち上がり)俺は向こうで、あんたを倒す戦略を練るよ。必勝の作戦を… ほえ面かくなよ、かんちゃん…

退場する、ルイ。

中村 しょうがねえな… じゃあ、やるか。

こっぴり顔く、ステリル達。  
皆、脱兎のごとく退場する…

### 03 Pretty testees

舞台奥に一人の男、ステリル司令官、芹田が現れる。

芹田 ……つまり、グリーン・ファクトリーにおける腐敗拡大の原因は、KITAZAC 内のリンクングだというわけか？

舞台上に北田と未来が現れる。

北田 そう…

未来 グリーン・ファクトリーのメンテナンスは通常プログラムされたデジタル部分が行っています。何か問題が生じたときデジタル部分は上部アーキテクチャ、すなわち KITAZAC の中核であるバイオ部分に指示を仰ぎます。バイオ部分はその問題を分析し、解決のための新しいプログラムを下位のデジタル部分に送り込みます…

北田 KITAZAC は自ら考えることのできるコンピュータなんだ。そういう風に関係されたってことなんだけど…

未来 しかし、現時点でのグリーン・ファクトリーの不具合は中核のバイオコンピュータと周辺のデジタル部分とのリンクング、すなわち取り交わしがうまくいっていないことによるものではないのか、と言うことなんです。

芹田 ……

北田 だから、最高級のデジタルコンピュータを与えられた子供という状態を想像してもよいかも… っていうか、つい調子に乗って、馬鹿高いコンピュータを買ってしまった親父がマウスを持ちつつ、「さて、どうしたもんかの…」って、独り言を漏らしてるって感じか？

未来 そりゃ、ちょっと違うだろ。

芹田 KITAZAC とはそんなものなのか？ そんなものでよく…

未来 試験運用なんですよ、ここ ER21 は… KITAZAC とて試験的なものなんです。

北田 これぐらいの不具合なんか、すでに織り込み済みって感じ。これが使いもんになるかどうか、確かめるための施設なんだから… 使いもんにならなかったときは、KITAZAC 研究開発費、260 億円ドブに捨てたってことになっちゃうけど…

芹田 二六〇億円…

北田 まっ、政府のプロジェクトなんてこんなもんですよ。はっはっは…

未来 「はっはっは」って、あんた… とにかく、その不具合を確かめるために、KITAZAC のバイオ部分の中心まで侵入することが必要なんです。

芹田 そんなの、君達がやればよいだろ。わざわざ…

周りを見渡す、芹田。いつのまにかハルとケイが立っている。

未来 KITAZAC は世界初のバイオコンピュータです。我々人間の脳を基に創造された。形作ることには出来ましたが、その機能の奥底は未だ不明な部分が多いのです。我々の脳と同じように… 私は SQID を使って幾度となく KITAZAC にコンタクトを試みていますが未だに成功していません…

芹田 スクイド？

未来 SQID、超伝導量子干渉計。本来、人間の脳の微細な現象を高感度に分析するための装置だったのですが、これがバイオコンピュータと生体脳をダイレクトに繋ぐことができるデバイスとしても使えることが明らかになってきています。

芹田 で、ハルとケイに何をしろと？

未来 これを使って、KITAZAC 本体とダイレクトに繋がるのです。

ハル ちょっと待て、俺が？

北田 そう、君はポリグロットだろ。電腦と端末やコンバーターを介さずに直接対話できる能力を持っている… だから、可能性が高いと踏んだ。

ケイ じゃあ、私は？ ハルのようにうまく電腦にコンタクトすることなんか…

北田 ……床に散まかれたマッチ棒の数を、ほんの一瞬見ただけで、二四六本だと言い当てる。いわゆる「直観像」ってヤツだ。君はカメラみたいに目で記憶できる能力を持っている。ポリグロットとともに多くみられる能力のひとつ、君達ステリルに…（「ステリル」という差別用語を行ったことに対して、謝ろうとする…）

ケイ いいわよ。ステリルで…

北田 ポリグロットもこの「直観像」と関係があるといわれていたことがある。電腦と直接「繋が」れる者は機械語を感覚的なイメージとして認識しているといわれている。色彩とか、においとか、味、そして「寒さ」や「暖かさ」などの温度で直感的にとらえている。

ハル うまく表現できないが、そんな感じかな…

北田 こんな彼らなら、きっと KITAZAC と繋がれるはずだと思ったんだ。

未来 そう、僕がやるより、確率は遥かに高くなるんじゃないかな…

北田 それに今回は、コンタクトを円滑に行わせるため、生体脳の活動を二十分の一程度に抑さえて行おうと思っている… これは KITAZAC 自身の分析速度が追いつかなかったことを考えてだ。これで、完璧だろう？

未来 （小さな声で）どうやって、二十分の一に？

北田 （未来だけに）体温を4℃に保つ。

未来 は？

北田 この医療用カプセルをハイバネータ代わりにして…

未来 ハイバネータって、人工冬眠しようっていうの？

北田 名案だろ？ ノイズの軽減にもなるし…

未来 危険じゃないの、4℃なんて… 言わんとしてることは分からんでもないけど…

北田 大丈夫！ すでに息子で確認済みだ。

未来 息子で確認済みって、まさかあんた自分の息子で、あの愛の結晶、元ちゃんて試しちゃったってわけ？

北田 でも、ちゃんとインフォームド・コンセントもしたよ…

未来 生後十ヶ月だろ？ 理解できるわけねーだろ！「今から直腸に温度プローブ入れまちゅからねー。はい、氷水のお風呂でちゅよー。冷たいでちゅけど、びっくりしないでねー。そのうち感覚なくなっちゃうから…」とか一方的に言い放ってただけだろ！

北田 ちゃんと答えてたよ、「だー」とか「あー」とか…

未来 あんたは何て鬼畜なんだ…

北田 ジェンナーだって、種痘を自らの息子で試したというじゃないか。

未来 それは捏造らしいぞ。最初は近所のガキで試したらしい。

北田 うぞ！ ジェンナーって鬼畜じゃん！

未来 鬼畜はお前じゃ！

北田 鬼畜はジェンナーの方だろ！

北・未 そこんどこ、どうなの、芹田さん？

芹田 （答えに窮して）…急にこっちに振られてもな。とにかく、人工冬眠は可能だってことだよな？

北田 うん。なんの問題もなかったな。何度か中断せざるおえなかったが…

芹田 中断？

北田 途中で、ママに見つかったちゃって…

未来 ママって、恵美子さん（一馬の妻、三十四歳。お見合いにより結婚）か？ お前、その実験、自宅の風呂でやったのかよ！

北田 そうだよ。十回ほど… そのつど強硬な妨害にあって… 最後にや、息子に近づくことも出来なくなったけどな、ははは…

未来 「ははは…」って、お前…（もう、突っ込むのに疲れたよ、俺…）

北田 とにかく、このハイバネーション、人工冬眠は十分に気を付けて行おう。グリーン・ファクトリーの腐敗の原因を探るには今の所、この方法しかないんだ。

芹田 そうなのか？

北田 ああ。だから、許可を…

芹田 (しばし考え込むが)…好きにするがいい。

芹田、きびすを返し、退場する。

北田 (ほくそ笑み)いいかね、ハル。KITAZAC の中央演算ユニットはバイオ素子だ。デジタル・コンピュータとは違う。単にバイナリのキューエリーを送り込んだところで答えてはくれない。考え方を考えるんだ。いいね…

ハル どうすれば？

北田 いいかね、二人とも。この対話はお互いに理解し合うことから始まる…

ケイ 理解し合う？

北田 お互いの「心の形」を…

ケイ 心の形？

北田 そう、心の形だ…

「心の形」…その言葉だけが木霊のように舞台に残る中、皆ゆっくりと退場していく。

#### 04 Offside!

幾人かの人々が舞台上に駆け込んでくる。  
中村勘介(かんちゃん)とステリル兵士達である。  
中村、舞台中央で立ち止まり、片手を高々と上げ、ホイッスルを吹き放つ！  
何故か足は肩幅以上に開いている・・・

中村 (頓狂な叫びで) オフサイド！

中村にわらわら詰め寄る、リョウ、ユウ、カズ、そしてコウ。

リョウ ちょっと待ったあ！ なんで今のがオフサイドなんだよ！  
中村 リョウのパスを受けたときユウとコウの位置はこんな感じだったろ？  
カズ 違うよ。(ユウを押して、位置を直し) こうだったよ！  
中村 いや、違うね！  
リョウ かんちゃん、自陣の深いところにいたから、そんなの分かるわけないじゃん。  
カズ そうだよ。僕は横から見てたんだよ！  
中村 ばかやろう！ 人間になんで目ん玉が二つ付いてると思ってるんだ？ 立体視だろ、立体視っ！ 何処から見たってものの遠近は分かるわい。

あまりの剣幕に皆納得しかける、「んー、そうか・・・」  
が、納得なんかしていません、「って、納得するとでも思うたか！」  
屁理屈が思いつかない中村は無差別にホイッスルを鋭く吹く攻撃(?)を開始・・・

ユウ やっぱり、プレーヤーが審判兼ねてるっていうのがいけないんじゃないのかな。  
中村 だって、人数が少ないんだから仕方ないじゃん。  
リョウ 交代制にしよう、審判。  
中村 やだねー。  
ユウ 聞き分けのないおっちゃんだな・・・ とにかくホイッスルを貸せ！

いつのまにか舞台後方に浅倉が立っており、そして、中村たちに近づいてくる・・・

浅倉 ……あたしがやってあげようか、審判？

皆、一瞬浅倉を見るが、無視して、喧嘩を続ける・・・

リョウ とにかく貸せって！  
中村 絶対やだねえーっ！  
カズ コウ、かんちゃんを羽交い締めにして・・・  
コウ ……でも、俺、かんちゃんのチームだ。  
ユウ そういうことじゃないだろっ！ とにかく・・・  
中村 分かったよ。(観念したように) かんちゃんも大人だ・・・

と、言うが早いか、ホイッスルをこれでもかって言うぐらいなめ尽くし、涎だらけにしちゃったの・・・  
「あーっ、きったねー」と、後退るステリル達・・・

中村 はい。

と、どゆるどゆるのホイッスルをリョウに差し出す。  
「勘弁してください・・・」ってな感じで、首を横に振るリョウ。

中村 じゃ、浅倉ちゃん、はい。

「あほか？」ってな感じで、あいそを尽かす浅倉。  
中村の瞳に明るい光が戻ったようだ。それも完全にね・・・  
笑顔がはちきれんばかりで、健康万歳だ。

中村 よーし、じゃあ試合再開だあ！

と中村、ホイッスルを吹き、ボールを蹴り、駆け出す中村。それを追って仕方なく走り出すステリル達。  
皆が退場し、舞台中央に浅倉が残る。ふと見ると、舞台脇にルイが座っている。将棋盤を凝視しているのだ。ルイに近づく浅倉・・・

ルイ (将棋盤から目を離さずに)・・・絶大なる人気だな、浅倉ちゃん？  
浅倉 まあね。・・・発育不良のガキどもには、あたしのダイナマイト・ボディのミラクル・マジックが効かないってことか。

ルイ かんちゃんとはえらい違いだな・・・  
浅倉 あんなのとは一緒にしないで！ 人質と犯人って言う関係性を理解してないんだから・・・人質としてのプライドって言うものを端っから捨て去っちゃったやつだろ・・・

ルイ (笑って) 人質としてのプライド？  
浅倉 いい、あたしは被害者、あんたは加害者。お互いの間には深い溝があるわけ・・・ あいつは病気よ。なんて言ったけ、「スコップなんとか症候群」・・・

ルイ ストックホルム症候群？  
浅倉 そー、それ。犯人と人質の間で目覚めちゃう偽りの信頼関係ってヤツ・・・

ルイ それって病気なのか？  
浅倉 なりたないはずの間柄で生じるんだから、異常なことでしょ？  
ルイ じゃあ、ロミオとジュリエットも病気じゃん。愛し合っただけでいけな二人が・・・って展開だろ？ 恋は病気なのか？ それは恋愛症候群と呼べばいいのか？

浅倉 (ノートを取り出し、必死にメモってる)

ルイ なにやってんだ？

浅倉 帳面付けてんの。なんか実生活のここ一番ってときに役に立ちそうだから、今の話の展開・・・

ルイ そうとう追い込まれてるのね、実生活でも・・・

浅倉 まっ、「てんぱってる」って感じか、年齢的にもね。・・・なんか、夜に一人きりになると、涙がぼろりとこぼれるのさ。たまにはこの豊満な乳もぼろりとこぼれることもあるのさ。「たまには」って言うより、「しばしば」っていう感じなの・・・って、余計なお世話だろ、お前！

ルイ ... (将棋の駒をぱちりと打ち) こう行っただとする。すると、こう来て、こうだろ。同桂馬、同金・・・

浅倉 少しは人の話、聞けよ！

ルイ ん？ なんだって？

浅倉 (あきらめて) なんでもねーよ。・・・ていうか、ほんと好きだね、あんた、それ。(と、将棋盤に顔を近づける)

ルイ 駒に触るな、鼻の頭に触れるな、そんでもって俺の乳首を人指し指でぽちっと押すな！

浅倉 さすが、将棋差し。あたしの出方を一瞬の内に三手先まで読んだね・・・

ルイ あんたの場合、展開いつも一緒だからね・・・

浅倉 で、この布陣は何て言うの？  
ルイ 穴熊・・・ かんちゃんが得意とする囲いだ。  
浅倉 囲い？  
ルイ 「玉将」がこんな感じで周りの兵隊に守られてる。かんちゃんはいつもこの形で持久戦に持ち込む。そして、攻撃する側の俺がしびれを切らして、ポカるのを待つってわけ。でも、この鉄壁の守りにも穴があるはずなんだ。必勝の攻め方ってヤツを見付けようと思ってさ・・・  
浅倉 さすが若き軍事参謀。こんな時にも休まず戦略練ってるって訳か？  
ルイ ん？  
浅倉 だって、この穴熊って、ここ ER21 みたいじゃない。そして、あんたがそれを攻めようとして  
いる武装警備部隊。言うなりや、敵の攻め方を考えてるって訳だ。  
ルイ これは将棋だ。実際の戦闘とは違う・・・  
浅倉 あんた・・・ タバコ持ってる？  
ルイ ...いや。  
浅倉 じゃあ・・・  
ルイ これかい？

弾丸を取り出し、弾頭を外し、中の火薬を少し浅倉の手の甲に分けてやる。  
それを鼻で吸い込む浅倉。ルイも同様にして火薬を吸う。

浅倉 どうして効くんだろうね、こんな火薬が？  
ルイ 火薬じゃなく、それに含まれている溶剤が効いてるらしい・・・（弾丸を差し出し）やるよ  
これ。  
浅倉 （手に取り）もらっというやる。持ってるの見付かったら、またあんた、かんちゃんにこっ  
ぴどく叱られるだろう？

弾丸を手に立ち去ろうとする。ふと、背後に人の気配を感じたからだ・・・  
舞台後方にケイが立っている。

ルイ 素直じゃねえな・・・（呼び止める）おい。お前が武器庫に侵入しようとしたのは、それ  
が欲しかったからか？

ルイも背後のケイの存在に気付いたようだ・・・

浅倉 （立ち止まり、意味有りげに微笑む）  
ルイ もう止めとけよ。今度は飯抜きじゃすまないぞ。次には、きっと監禁される・・・  
浅倉 .....

無言で退場する浅倉。ケイがルイに近づいてくる・・・

ルイ ケイ、「巨乳の規律違反者（浅倉のこと？）」の警戒任務はもう解かれたって言うわけか。  
ケイ ...ルイ？  
ルイ ん？ どうした、ケイ？  
ケイ 私、芹田さんに呼ばれたの。ハルと一緒に・・・  
ルイ ハルと？ 新しい作戦任務か？  
ケイ うん。まあ、そうなんだけど・・・  
ルイ どういう作戦？  
ケイ ...それは、芹田さんの方から説明があると思う。でも・・・  
ルイ 不安なのか？

ケイ (首を横に振り) 不安なんて、そんなことちつとも。だって、芹田さんの決めたことなんだから… あのね、ルイ？  
ルイ なに？  
ケイ なんだと思う、「心の形」って？  
ルイ は？  
ケイ 心の…

二人の間にずけずけと走り込んでくるサッカー集団。  
ユウの足に背後から滑り込む中村。倒れるユウ。

リョウ 今のファールだろ！ 審判、笛吹け。  
中村 違うよ、今のワザとじゃないもん。  
カズ (ユウに駆け寄り) 大丈夫、ゆう？  
ユウ なんとかかな…  
リョウ 笛だよ、かんちゃん！  
中村 いや、だからな、今のは…  
リョウ カズ！  
カズ (ポケットからレッドカードを取り出し、示す) 退場！  
中村 (自らのポケットをまさぐり) あっ、ない！ カズ、いつの間に俺のカードを！  
カズ (なんかメモしてるみたいだぞ) とにかく、かんちゃん退場。  
中村 (がっかりしながら、ピッチの外へ…)  
リョウ じゃあ「間接フリー」な。ユウ、カズ走れ！ あっ、かんちゃん、ホイッスルを！ あっ、やっぱりいいや…

ボールを蹴り、走り出すリョウ。ユウ、カズ、コウとともに退場。  
ルイに近づいていく、中村。

中村 ……退場喰らっちゃったよ、ルイ。  
ルイ いつもながら若いね、かんちゃん。  
中村 おいおい、俺はまだまだヤングなマイト・ガイだぜ！ (と、将棋盤をのぞき込み) ……ほ  
一つ、風車か？ やるもんだね…  
ルイ 風車？  
中村 お前の陣形だよ。ほら、そんな形に見えるだろ？ ……これで、左翼から徹底攻勢ってわけか。「風車」対「穴熊」…… そう来たか。面白え。(いささか興奮気味に) ルイ、盤持って向こう行こう。持ち時間なら互いに腐るほどある。  
ルイ あの…

ルイ、ケイを見る。ケイは微笑みを返すのみ。  
ルイ、立ち上がり中村とともに舞台後方へと消えていく。  
無人の舞台に中村の興奮した声が響くのみ…  
「いいか、ルイ。鍵は戦力の集中と分散だ。とにかく、打っていけば見えてくるって…」  
去っていく二人を見つめるケイ、自らもきびすを返し退場する。

## 05 Shape of his heart

間欠的なパルス音。心音？  
舞台上に未来、そして北田。

未来 ……体温は4℃に低下。心拍数、一分間に八回に減少しました。  
北田 安定したと見ていいか？  
未来 はい。  
北田 SQID の電圧を上げてくれ……

舞台後方にハルとケイ。頭部、と言うか顔面に異様な機械を装着している。  
これがきっと SQID なのであろう。  
柱に縛りつけられでもしたように、微動だにしない。  
青白い光が彼らを照らしている……  
未来も SQID を装着する。

未来 医療診断ユニットを介して KITAZAC 本体に接続します。

と、ハルとケイを照らすライトが赤に替わり、ウォーニング・ブザーが鳴り響く。

北田 どうした？  
未来 心配ありません。低温低下に対する警告です。診断ユニットのイニシャライズを開始……

ブザーが止み、低いハブノイズ……  
照明が再び青白い色に替わる。

未来 二人とも体温は4℃に安定。心拍数、一分間に六回に減少…… KITAZAC 本体に某かの動きが生じているようです。

北田 どのような？

未来 ぼくの SQID 端末からでは焦点が絞りきれません。

北田 未来君、ハルの眼球に動きがある。

未来 REMですか？

北田 そうだ。突発的なものではない。

未来 ハルの大脳の SQID イメージを見てください。非常に弱いですが、活動の高まりが……

北田 ハルはコンタクトに成功したのか？

未来 まだ、どうとも…… 単に夢を見ているだけかもしれませんし…… ケイの方はどうですか？

北田 変化無しだ……

未来 ちょっと待ってください。ハルの頭部周辺で急激な磁界変化が起こっています……

北田 キュエリーを送り始めたようだな…… ディテクタ、インタプリタをオン。分析開始。

未来 どうですか？

北田 デジタル・キュエリーだ。周辺の演算システムに送っているんだ……

未来 これが、ポリグロットですか？

北田 初めてか？

未来 はい、本物は…… しかし、本当なんですね。ハルは頭頂部から微弱ながら電波を発している……

北田 別に驚くに当たらないだろ。神経伝達は電気信号なんだから……

未来 ですが、それを外部に……

北田 シビレウナギは八〇〇Vの起電力で外部に電気をパルス発信することが可能だ。それ以外にも放電により身体の周りに電場を作り出す魚は多数存在する。こいつらは電場の乱れを体表にある別の感覚器で検出することまで可能なんだ…

未来 それに比べれば、驚くに当たらないと？

北田 そういうこと… 未来君。ヤツの送っているキューエリーの内容を知りたいか？

未来 何をやっているんですか？

北田 モレキュラー・エレクトロニック・デバイスに自分自身を繋ごうと必死になっている。デジタルを介してKITAZAC 本体へ繋がろうとしているわけだ。一見回り道のように見えるが…

未来 本質を見抜いているって訳か…

北田 ものすごい速度でパスワードを吐き出してる…

未来 根っからのハッキング小僧って奴か？

北田 ああ。だが、残念なことに、引っかかっているみたいだな。未来君、ハルに「アドミニストレーター」の権限を与えてやれ。

未来 分かりました。本当はもう少し見ていたところですが…

北田 ……凄いもんだ。この早さ。ER21 のセンサーモジュールを次々に組み込んでいる。なあ冷却処理で生理活動が二十分の一に押さえられているのに、この速度だぞ！

未来 ハルの SQID イメージを見てください。後頭葉・第二視覚野に猛烈な活動の高まりが…ちよい待ち、センサーモジュールって音響感知システムじゃなかったっけ？

北田 そうだよ。

未来 音でしょ、音… それなのに何故視覚野なの？

北田 音の映像化。

未来 ふーん…

北田 ふーんって、理解できたのか？

未来 分かったフリしただけ…

北田 やっぱり…

未来 あっ、ケイの SQID イメージにも変化が…

北田 とうとう来たか。

未来 でも…

北田 どうした？ あれ、ハルの時とパターンが違うな…

未来 感覚野ではなく、前頭葉・大脳皮質… それに側頭葉・海馬…

北田 記憶に関与する部分か？ 夢でも見ているのかな…

未来 KITAZAC のパターンと同期しているようです。

北田 KITAZAC と同期？

未来 ええ。偶然かも知れませんが… あっ、ケイの心拍数が増加しています。それに呼吸も… どうしましょう？

北田 実験を停止しよう。もう限界だ…

未来 そうですね。彼らにとっても…

北田 いや、限界なのは彼らじゃなくって、俺。この俺。

未来 は？

北田 コンタクト始めてもう三時間だよ。冷却睡眠してる彼らにとっちゃ生理時間で十分足らずかも知れないけどさ、俺にとってはもう三時間なわけ…

未来 体力無いのう、おっさん…

北田 てな訳で、停止スイッチ、ぷちっ…

低いハブノイズの周波数が急速に下がる…  
ハルとケイに当てられていた照明に赤みがさしていく…

未来 あーあ、勝手に押しちゃって…

北田 疲れちゃったね、未来君。

未来 そうですね。でも、もう少し長く・・・  
北田 今度から、交代でやろうよ。半々でさ、俺が三時間、で、未来君が五時間、一時間のコー  
ヒーブレイクの後、俺一時間、未来君五時間・・・  
未来 それ、少しも「半々」じゃないだろ！ 彼らが目覚めるまで三〇分はかかります。それまで  
にきちんとデータ整理しちゃいますからね・・・(と退場しようとする)  
北田 (制して)何処いくの？  
未来 ト・イ・レ。  
北田 あっ、俺も・・・  
未来 ついてくるな・・・

未来、退場する。それ追って北田も退場。  
舞台の上にハルとケイ。ゆっくりと SQID を外す・・・

ケイ (荒い息を吐く)  
ハル 大丈夫か、ケイ？  
ケイ 大丈夫・・・  
ハル 入り込めたか、KITAZAC に？  
ケイ ………  
ハル 周辺のデジタルデバイスなら、いつもの調子で朝飯前だったんだが・・・ バイオは勝手に  
が分からなくてな・・・ っていうか、ちゃんと動いてるのか、その KITAZAC の本体とやら  
は・・・  
ケイ 彼らは動いてると言ってたでしょ？  
ハル でも、俺には・・・  
ケイ ねえ、ハル。ほんの一瞬だったけど、あたしそれに触れたような気がするの・・・  
ハル 本当か、ケイ？  
ケイ ええ、確かに触れた・・・ (独り言のように) 違う、触れられたの、あたしが・・・

ハルとケイ、ゆっくりと後退し、そして退場する。

06 King sallied out...

舞台袖に中村とルイが現れる。  
将棋盤を挟んで座り込む二人。

中村 お前がこう来るなら、俺はこう打つ。

ルイ じゃあ、こうかな。

中村 んー。いいねえ。殺気を感じる一手だね。・・・「風車」なんて、兵力を広く展開させすぎて、集中力のいまいちな戦法だと思ってたんだが、考えを改めざるをえんな・・・(ぱちんと打つ)

ルイ 局地戦としてみた場合、あきらかに動員できる戦力がこっちの方が多いんだ。だから、部分的にだったら戦術的に有利に立てる。部分的に勝ち続け、そして最終的に勝負に勝つ。(ぱちんと打つ)

中村 こっちは遊び駒が多い分、集中的に攻められると辛いな。こうなる前に左右に揺さぶっておくべきだった・・・ さすが若き戦術家と呼ばれただけはある。(ぱちんと打つ)

ルイ 将棋と戦争は違うよ・・・ 昔、ある男の屋敷を襲撃したことがある。堅い守りの、かんちゃん「穴熊」みたいに堅い守りをこんな風に集中的な中央突破で・・・

中村 三島官房長官のことか？

ルイ ああ。

中村 じゃあ、そんな昔のことじゃないだろ？ つい、五ヶ月前の・・・(ルイがぱちんと打ったその一手を見て)うわ、こう来るわけ・・・ じゃあ、こうだ(ぱちん！)

ルイ ・・・そうだ、三島のじじいの、あの差別主義者の、あのくそだぬきの屋敷だ。まったく予想を越えたくそでかい屋敷だった、警護部隊をたんまり抱え込みやがって・・・

舞台後方に M2 Machine Gun を抱えたコウ、そしてカズとリョウ。それから、ハルとケイが現れる。

ルイ ・・・リョウ、状況は？

リョウ 中央突破で玄関ぶち破ったのはいいが、思わぬ反撃ってヤツだ。

カズ それにしても、なんなの、この数？

ルイ ハル、戦況報告。

ハル ・・・警護部隊の数が多すぎる。予想を遥かに越えている。

ルイ 事前に収集した情報に誤りが？

ハル いや、そんなはずはない。まさか、こっちの情報が・・・

ルイ 漏れてたって言うのか？ まあ、その可能性はあるだろうな。奴等を甘く見てはいけない・・・

カズ ルイ、このままだとコウの弾丸も尽きるかも・・・

ルイ もう少し耐えてろ・・・ そろそろ、ユウ達が動き出す。・・・突入本隊とは別に東ゲートに別動部隊を配置していたんだ。ユウに率いられた一団が屋敷の右翼から攻め込む。こんな風にね！ (ぱちん！)

舞台袖にユウ。

中村 げ、やはりそう来たか？ でも、そんな手は予想の範囲内だぜ！ (ぱちん！)

ハル ・・・東側ゲートのユウより入電。

ルイ ダイレクトで繋げ。

ユウ ・・・ゲートのロックが開かない！

ハル なんだって？

ユウ 開放予定の二三〇〇時を三〇秒過ぎている。  
ハル 馬鹿な！ メインフレームに仕掛けた時限プログラムが起動して、この屋敷のセキュリティシステムを無力化させているはずだ…  
ユウ じゃあ、一体？  
ハル チェックする…  
中村 どうよ？ かんちゃんもやるもんだろ？  
ルイ ばれてたか。(ぱちん)

ヘリの飛来音。

リョウ ヘリだ！ ヘリが飛んでくる！  
ルイ 戦闘ヘリか？  
コウ (首を振る)  
カズ コウが違うって！  
ケイ CNN… 報道用ヘリコプターよ。  
リョウ あほか？ 撃ち落とされるぞ。…そうだ、ルイ。あいつを撃ち落として、警護部隊にぶつけるっていうのは？ コウならきっと…  
ルイ 待て、リョウ。ハル、報道用ヘリコプターからの電波をキャッチできるか？  
ハル どうにか。  
ルイ 搭載されているカメラに特殊機能はあるか？  
ハル さすが出歯亀テレビ局！ 赤外線ナイトビジョンにサーモグラフィ、トモグラフィックスキャナーまで積んでやがる。  
ルイ トモグラフィックスキャナーをハックし支配下に置け。屋敷内を隈なくスキャンするんだ。三島を見つけ出すんだ。いいか、俺たちの襲撃はバレてたんだ。…問題はいつからバレていたかっていうことだ。一時間前にばれていたんなら、もう奴はここにいない。しかし、十分前なら、奴は邸内のどこかに隠れている。ケイ、いつもなら奴は何処にいる？  
ケイ いつもなら、二階南側の寝室…  
ハル 寝室には今は誰もいない。  
ルイ ケイ、昨日の夜と今夜で何か屋敷の姿に変化はないか？  
ケイ 変化？  
ルイ どんな小さな事でもいい。お前の頭の中の昨日のイメージと今夜のものとを重ね合わせてみる。  
ケイ (目を閉じて)…空の明るさが違う。  
ルイ それは天候の問題だろう…  
ケイ 違うの。部分的に… 屋敷の東側の輪郭がほんの少しだけど明るい…  
ルイ 屋敷の東側の奥には何がある？ ケイ、屋敷の設計図を思い出せ。何がある？  
ケイ 小さな礼拝堂…  
ルイ 礼拝堂？  
ケイ 半地下になっている礼拝堂…  
ハル 近接した建物に明かりが点っている…  
ルイ ハル、そこを集中してスキャン。  
ハル 三名いる。うち一名は胸の部分のイメージに乱れが…  
ルイ 三島だ！ 奴ぐらいのじじいなれば、心臓にペース・コントローラをインプラントしてるだろ。それがトモグラフィの画像の乱れとなって現れる… ユウ、聞こえるか？ お前の部隊を中央玄関へ、コウ達主力部隊と合流させる。ただし、お前だけそこに残れ。  
ユウ なんだって？  
ルイ 俺とお前で、礼拝堂に奇襲をかける…  
ケイ ルイ、何をいつているの？  
ルイ こんな状況なんだ。俺が動かなくてどうする。

拳銃のコッキング・ピースを引く、ルイ。

中村 そうだ。それだよ、ルイ。自らの王将を攻撃に参加させる。「王将の攻撃力」を理解できるものこそ、穴熊を破ることが出来る。

ルイ リョウ、主力部隊の退路を合流する別動部隊とともに確保しろ。敵にケツを取られるな。カズ、コウに伝えろ、「派手にやれってな」…

リョウとカズ、大きく頷き、舞台袖へ消える。  
と、雷鳴が轟く。

ハル 雷だ。ルイ、急げ。ヘリが上空に逃げる。トモグラフィーが効かなくなる。

ルイ 分かった。落雷は近いのか？

ハル 真上の雲がばりばりに帯電してる。この庭に落ちたっておかしくねえ。さっきから気になってはいたが…

ルイ コウ達に伝えろ。それに… ケイ、目を閉じておけ。お前の目の前にでも落ちたら大変だ。

ケイ 大丈夫…

ハル 大丈夫じゃないだろう！ お前の網膜はこの前の戦いでも、かなりのダメージ受けてるんだ。それじゃなくても脆弱な作りになってるんだから… 今、強い光を見つめたら、今度こそ失明必死だ。

ケイ 戦場で目をつぶることなんて…

ルイ 失明するよりはいいだろ！

ハル 失明しちゃったら、せっかくのお前の「直感像」も… だから、ルイの言うことを聞け。

ケイ …分かったわ。(頷いて退場する)

ハル ルイ、とにかく急げ。ケイだけじゃなく、コウのM2にでも落ちたら、洒落にもならない…

ルイ 分かった。

ハルもまた退場する。

ルイ …こうして俺とユウは、ハルの指示のもと、礼拝堂に侵入した。玄関前ではコウが派手に撃ちまくっていて、警護部隊はそちらに戦力を集中させるしかなかったから、俺たちの奇襲は見事に成功した。

舞台後方、スタンドグラスの前に一人の男が現れ、そして膝をつき、手を組んで祈る仕草をする。三島官房長官、その人である。

ルイ 俺たちは警護の兵士を撃ち(ルイとユウ両翼にて拳銃を撃つ)、ユウが三島を捕らえようと近づいた…(ユウ、拳銃を構え、三島へ近づいていく) 芹田さんからの指示は三島の誘拐である。死体であってもかまわないから、持ってこい、そういう命令だった… そのころ、芹田さんは俺たちとは別の部隊を率いて、首相官邸に襲撃をかけていた…

ユウが祈り続ける三島の頭に銃口を押し当てる。

ルイ かんちゃん、(ぱちんと駒を打ちつけ)これで「詰み」だ。

中村 じゃあ、こう取る…

ルイ かんちゃん、もう詰んでるだろ？

中村 俺の玉将が取られるまでは、勝負は終わりじゃない。

ルイ あのなあ、かんちゃん、勝負はもうついて…

その時、三島が急に立ち上がり、ユウの銃を奪い逆にユウの頭に銃口を押し付けた。ユウの首にかかったロザリオを引っ張っている。チェーンがユウの首に食い込んでいる。苦しそうなユウ。拳銃の狙いを付けるルイ。  
遠くで雷鳴・・・そして、叩きつけるような雨音。

ユウ 撃て、おれにかまうな・・・  
中村 さあ、俺の玉将を取ってくれ。それで勝負はお仕舞いだ・・・

叩きつけるような雨音。スタンドグラスが目も眩むほどに明滅する。そして雷鳴が轟く。

ユウ こいつを撃て！ ルイ！

スタンドグラスの明滅、そして雷鳴・・・  
ロザリオの鎖が、ぶちりと音を立てて切れる。  
倒れ咳き込むユウ。脱兎のごとく逃げ出す三島。  
スタンドグラスの明滅、そして雷鳴・・・

ユウ ルイ・・・  
ハル (舞台袖から飛び出し)ルイ、芹田さんから入電。首相官邸の占拠に失敗。奇襲部隊ほぼ全滅とのこと。  
ルイ 芹田さんは？  
ハル 無事、逃げ切れた。とにかく、こちらも撤退せよとの命令だ。  
ケイ (舞台袖から飛び出し)ルイ、警護部隊の一団が礼拝堂に向かっている。急いで逃げて！  
ルイ 分かった。ハル、全部隊に撤退命令。

ハルとケイ、こくりと頷き、舞台から消える。

ルイ (ユウを助け起こし)ユウ、警護部隊が迫っている。急いで逃げ出すぞ！  
ユウ すまない・・・  
ルイ いいから、いくぞ・・・

ユウを引きずって歩き出す、ルイ。ふと、胸に手を当てるユウ。

ユウ 俺のロザリオ！ その辺りに、落ちていないか？  
ルイ ロザリオは俺が作ってやる。とにかく、その窓から出るんだ！

ユウを舞台脇へと押しやる。ユウはそのまま退場する。  
叩きつけるような雨音。スタンドグラスの明滅。そして雷鳴・・・

ルイ 何故、俺はあの時撃てなかったのか？ 確かにユウのことは気になった。でも俺の腕なら、ユウを傷つけずに三島を一発で仕留めることが出来ただろう・・・でも、そうしたら、その背後のスタンドグラスまで撃ち抜いてしまうことになる。あの時、目に飛び込んできたのは救世主の御姿。磔刑にされたイエス・キリスト・・・それは神様を撃ち抜くことと同じだろ？

中村 ...おい、ルイ。どうしたんだよ。玉将取るのか取らねえのか。早く終わりにしちまおうぜ。...いや、俺は絶対に「投了」なんてことはしねえよ。だから、早く取れ・・・

ルイ、将棋盤に近づき、駒をかき混ぜてしまう。

中村 おい、ルイ？

ルイ 今日のはチャラにしておいてやる。

中村 チャラって、お前なに考えてるの？ 今回のお前の勝率、二割台にあがったのに・・・  
(ポケットからメモみたいの取り出し、なんか書いてる)

ルイ 明日またやろう・・・

退場するルイ。

中村 ったく、最近の若いのは、なに考えてるんだか・・・ にしても儲けちゃったな。最後まで負けを認めないっていうのもありだな、こりゃ・・・

と、世迷い事を呟きつつ、かんちゃんも退場する・・・

## 07 Secret communicator

舞台後方に立つ、芹田がゆっくりと振り返る。

芹田 内通者？

と、舞台袖にハル。

ハル はい。SQIDによるKITAZACへのコンタクトをしているときに分かったのですが。ここER21から多数の通信パケットが外部へと送られています。

芹田 送られた先は？

ハル CityWebのFire wallの向こうに行ってしまうので、送付先は特定できません。

芹田 そうか……

いつのまにかルイとケイも現れている。

ルイ 発信地点の方は？

ハル それが……

ルイ どうした？

ハル よく分からないんだ……情報が「ある空白地帯」を通過するときに属性が変わってしまうんだ。

ルイ 空白地帯？

ケイ KITAZAC……

ハル 俺にはKITAZACが見えないんだ。その周辺までなら近づける。でも……もしかしたら、KITAZACなんて本当は……

ケイ いえ、存在している。だって、分かるもの……あたしはハルとは違って周辺の演算システムのデジタル・プログラムを覗くことは出来ないけれど、KITAZACを、たぶんそれらしき存在を感じることは出来た……

芹田 ハルでも覗けないコンピューターがあったとはな……

ハル バイオコンピュータは普通のヤツとは違う。全然違うんだ……

ケイ KITAZACは人の脳髓を基に作られた。コンタクトするためには「心の形」を理解しなければならぬ……

ルイ 心の形？

ハル よく分からないけど、そんなことらしい。

ルイ じゃあ、かなり難しいな。いかにハルと言えど、心の中は簡単には覗けないだろ？

ハル お前のだったら簡単そうだけだな……

ルイ じゃあ、俺が今考えていることを当ててみる。

ハル (ルイの額に手をかざし)「……腹減ったな。でもあのまずいのはやだなー。ほんと吉野家の特盛でも喰いてえもんだよ。それも、つゆだくで……」

ルイ (鼻で笑って)俺がそんな単純なことを考えてると思ったか？ ……悔しいが正解だ。

ハル 正解なのかよ！

芹田 とにかく、コンタクトが難しいことだけは分かった。しかし、グリーン・ファクトリーの腐敗の原因究明のためにも、もう少しだけ続けてみてくれ。

ハル 分かりました。がんばってみます。

芹田 それに、内通者の件だが……もし本当だとしたら、由々しき事態と言えるな……

ハル ええ。でも、分かっているのは通信パケットが外部に送信されているという事実だけです……

ケイ 内部の人間ではなく、KITAZACが……

ハル　　そういう可能性だってゼロではない。とにかくもう少し調べてみます・・・  
ルイ　　こちらも、内部の人間の挙動に気をつけるようにします。特に人質の一部には・・・

何者かの気配に気付いて、拳銃を引き抜き、銃口を舞台袖に向ける。  
舞台袖から、聞き耳を立てたままの姿で浅倉が登場。銃口に驚き、手を小さく上げる。

浅倉　　ちょっとちょっと、たいむ、たいむ。撃つのかなーし。(周りを見渡して)あれ？　ここは何処かしら？

ルイ　　何をしていた？

浅倉　　何って、「盗み聞き」・・・

ハル　　少しはごまかせよ。

浅倉　　だって、「盗み聞き」は「盗み聞き」でしょ？　廊下とぼとぼ歩いてたら、なんか真剣な会話が聞こえてきたから、つい・・・　ほら、あたし、オバちゃん入ってるから、ひそひそ話に興味津々って感じなの・・・

芹田　　北田の秘書か？

浅倉　　そう、「美人秘書」のあ・さ・く・ら。

芹田　　著名な科学者に政府が秘書としてエージェントを張りつけるという話を聞いたことがある。まさかそいつが・・・

ルイ　　(銃を仕舞い)いや、こいつは大丈夫でしょう。ただのバカですから・・・

浅倉　　ばか？　今ばかって言ったのか、小僧！　(ドスを効かせて)あたしをなめるんじゃないよ！　(と、ちょっと考えて)・・・んっ、なめてもいいかな。ちょっとだけなら・・・　でも歯は立てちゃ、ダ・メ。そこはとっても敏感なところだから・・・

ルイ　　ねっ、ことのほかバカでしょ？

皆、力強く頷く。浅倉もね・・・

浅倉　　って、ちょっと待てよ。それじゃほんとにバカみたいじゃんか・・・

芹田　　ルイ、そのばかを向こうへ。

ルイ、浅倉を押し退場する。

浅倉は「ちよいとそこのおっさん、あんたもばかって言ったね・・・」とか騒ぎながらも、舞台上から消える。

芹田　　頼んだぞ、ハル、ケイ。私もあの食べ物の臭いには、我慢出来なくなってきた・・・

ハ・ケ　　はい。

芹田、きびすを返し退場。

ハルとケイも次いで退場する・・・

## 08 His cool attitude

舞台上うろうろしている北田。  
そこに未来が現れる。未来は疲労困憊って感じ・・・

未来 (欠伸して) 疲れましたよ。八時間ぶっ続け・・・ にしても、北田さん。  
北田 ん？  
未来 しかし、三度目と言うことで、かなり慣れてきたと言った感じですね。ハルは KITAZAC 本体に触れるところまでできています・・・ 今度は温度を少し上げて、代謝速度の抑制を・・・  
北田 ケイの方はどうだと思ってる？  
未来 ケイですか？ ケイは望み薄って言ったところですね。報告だって曖昧だし・・・  
北田 そうかな？ 俺にはケイこそ KITAZAC とリンクできる可能性があると思っているんだが・・・  
未来 SQID パターンの同期ですか？  
北田 そうだ。  
未来 単なる偶然かも知れないでしょ・・・  
北田 ハルの方は単に KITAZAC の周辺のデジタルデバイスを飛び回ってるだけのように思えて仕方がない。見た目は派手だが、本質に近づいていない・・・  
未来 しかしハルからの報告には見るべきものがある。例えば、KITAZAC からグリーン・ファクトリーの管理システムへプログラム・パケットが送られていた形跡があるとか・・・ つまり、これは KITAZAC がちゃんとグリーン・ファクトリーをコントロールしているという証しでしょ？  
北田 でもそのプログラム・パケットは・・・  
未来 高度に暗号化されていて、デコードできない。これさえ読めれば、腐敗進行の原因だって・・・  
北田 パケットを開いてみたらただのクズってこともあるかもよ。  
未来 怖いこと言うな、この人。・・・しかし、凄いですね、ポリグロットって言うのは。「人間にこんな可能性が秘められていたのか」って感じ・・・  
北田 驚くに当たらないだろ。バイオコンピュータ研究をしている者がそんなこと言うなんて、嘆かわしいねえ。KITAZAC は我々の脳を基に作った。そしてそれは様々なコンバーターでデジタル機器に接続されている。ハルはそれと同じことをしているだけだ・・・  
未来 ハルを開発グループに入れるべきでしたね。  
北田 そうは思わないな。彼らは脳に適應しているだけだ。いわば自然に適應した野性動物のようなものだ。野性動物が自然を研究したり改善したりしないように、彼らも脳空間に対し穿った考えなんて持ち合わせていない・・・  
未来 野性動物？ 人類だって元はそうでしょ。自然の中で生まれ、そしてその自然を支配しようとしている・・・(欠伸をする) 北田さん、なんか達観してるって感じですね。昔、ポリグロットの研究でもしてたんですか？  
北田 ああ。流行ったことがあるんだ。過去にね・・・  
未来 流行った？ (欠伸)  
北田 君は若いから知らないかもしれないが、そんな昔のことじゃない。ほんの十数年前のことだ。この種の能力の研究が盛んに行われていたことがある。心理学や大脳生理学の研究だけでなく、バイオコンピュータ開発の基礎研究としても・・・ それはケイのような直感像所有者、eidetic、やハルのようなポリグロットが、いたるところで出現し始めたことにもよるんだが・・・ 当時、このような能力は第二次性徴期に急に顕在化することが知られるようになっていた。そんなこともあって、様々な教育機関や施設で能力者の調査が大々的に行われたんだ。時の政府はこの能力の基礎的研究に天文学的規模の資金を投入した。日々発見される能力者、そして潤沢な研究資金。バイオコンピュータ開発が中心の

俺がいた研究所もご多分に漏れずその能力の研究に没頭していた。その頃、俺はまだ「学生に毛のはえたような・・・」というヤツだったけどね・・・

そうだ、とある胡散臭せー社会学者が確かこんなことを言ってた、「彼らは進化した人類、ポストヒューマンである」って・・・ポストヒューマン、次なる人類・・・しかし、彼らはそうなることはなかった。しばらくして、能力者のほとんどが infertile すなわち生殖能力を持たないということが明らかになったからだ。環境汚染物質による発生異常、それが脳神経系にも影響を与えた・・・そして、彼らの特殊能力は病気として定義されることになる。

「ステリロ・サヴァン症候群」

(笑って)「症候群」・・・まったく、猫も杓子も「症候群」ときたもんだ・・・能力者は全員「病気」であるとされ、特定の施設で保護されるようになった。保護？ いや、隔離だ。伝染性もないっていうのに・・・きっと政府が、いや民衆が、恐れを抱いたんだ、彼らの能力とその数に・・・おのずと研究の中心は特殊能力の解析から、発生異常の原因究明に移り・・・やがて誰もその能力について真剣に調べようなんて思わなくなった。未成熟者達、ステリル達は学校で、保育施設で、病院で、選別され、保護の名のもとに収容されていった。まるで社会全体がその存在を隠そうとでもするように・・・実際、隠そうとしたんだけどね。「ステリルの発生は予見不能な汚染物質の漏洩による一過性の不幸な事件で、遅ればせながら政府としてはその対策をきちんと取った。だから、もう、これ以上やいのやいの言うなよ。ステリルなんて過去のものじゃん」って感じか・・・社会の大多数もその意見に同意した。一部の人権保護団体なんかは強行に反対していたけどね。まあ、中にはかなり過激な「武闘派リベラル」なんてあったな。芹田なんかはその流れだろ、きっと・・・ステリルの選別と隔離。社会規模で進行する差別。俺はそれを眺めてた。ただ、観客席からぼけ一つと眺めてただけだ。博士号取ったばかりの俺には人権運動なんかより、もっと他にやりたいことがたくさんあったし、それ以上にやらなければならないことがたくさんあった。だから・・・

未来君、俺は別に言い訳をしようって・・・未来君、おい、未来君？

未来  
北田

ぐー、ぐー・・・(熟睡中)

あー、あー、せっかく北田先生が「ちょっといい話」をしてるってときに、君って人はこれだものな・・・熟睡しちゃってるみたいだし・・・なんか癪だから、額に悪戯書きしちゃおーかな、「牛ロース肉」とか・・・

マジックペン(極太)のキャップを外し、熟睡する未来に静かに接近する北田。  
と、飛び起きる未来。

北田  
未来  
北田  
未来

びっくりした、未来君。タヌキ寝入りはずるいぞ！

何言ってるんすか！ あのね、今思いついたんだけど・・・

はっ？

KITAZAC とうまくコンタクトする方法。細胞レベルで繋げばいいんだ。モレキュラー・デバイスとダイレクトに・・・

居ても立っても居られないという風に、駆け出していく未来。

「未来くーん・・・」で感じで、それを追いかける北田。

二人が退場し、舞台は無人となる・・・

09 Hot cells

遠くで何か巨大なもの同士がぶつかり合う音。  
頭上から聞こえてくる。そこかしこから・・・  
中村が登場する。そして、他方からルイ。

中村 なんなんだよ、この音。気味が悪いな・・・  
ルイ 二日前から地上で工事が行われているらしい・・・  
中村 地上でなにやってるって？  
ルイ 政府が俺たちを閉じ込めようと、ベンチレーターやエレベーター・シャフトを塞ぎ始めてるんだ。  
中村 は？ 俺たちを閉じ込める？  
ルイ そう。人質ごと。ER21 という名の巨大な棺桶に入れられて埋められちゃうみたいよ・・・  
中村 おいおい、そう他人事みたいにな・・・  
ルイ いいじゃん。死ぬまで二人で将棋が打てる・・・  
中村 そりゃいいな・・・いいか？ いいのか、俺？  
ルイ 腹くくれよ、かんちゃん。  
中村 まあ、本当にそうなったときにはくるさ(首を・・・うそ)。で、どんな具合なんだ？ すべてのエレベーター・シャフトや排気塔が？  
ルイ そう、すべての外部との境界が重合ポリマーで何重にも塗り固められてるんだって。それも突貫で・・・  
中村 開放ゲートは？  
ルイ 開いたまま。だけど、かなりの兵力が集められている気配アリ・・・  
中村 何かきな臭いな・・・  
ルイ あちらさん何かやる気だってことだよ。  
中村 敵の次の手は？  
ルイ 目下、長考中・・・ あっ、そうそう中央集中排気塔付近でかなりでかい工事が行われているらしい。かんちゃん、なんか心当たりある？  
中村 中央集中排気塔付近で大規模工事・・・ まあ、それ自体でかい排気システムだからな、Central CV は。  
ルイ まあ、芹田さんもそう言っていたんだけど。でも、ハルが気にしててさ、それにしても規模が大きすぎるって・・・  
中村 ………(考え込んでいるよう)  
ルイ どうした、かんちゃん？  
中村 Central CV・・・ なあ、ルイ。ここ ER21 の真上にはイプシロン・リアクターっていうでかい原発があるのを知っているよな？  
ルイ ああ。  
中村 その横に核燃料再処理施設があるのを知ってる？  
ルイ 核燃料再処理？  
中村 完全オートメーション化された設備で効率よく使用済み核燃料から未反応ウランとプルトニウムを分離濃縮できるシステムなんだ。  
ルイ で、それが何か？  
中村 その再処理施設の中には核廃棄物をこれでもかって詰め込んだ倉庫がある。倉庫とは言っても、レドンコンクリートで厳重に隔離されているんだが・・・ とにかくその倉庫の中はセシウム137とかストロンチウム90とか放射能が極めて高い放射性廃棄物がてんこ盛りってな具合なんだ。俺たち City Energy の連中は、そのことをホットセルと呼んでいた・・・  
ルイ ホットセル？

中村 そう、ぎんぎんにホットなお部屋って訳。で、過去の記憶を引きずり出してみるとだ・・・それが Central CV に近接しているんだな。

ルイ だから？

中村 (ルイの顔に自らの顔を近づけ、まるで怪談でも語るかのように)・・・ホットセルを囲っているレドンコンクリートは放射線の遮蔽能力は高いが、代わりに衝撃に弱いと言われていた。いくつか穴を穿って、高性能爆薬仕込んで、「ぼんっ！」で、簡単に大穴が空く。その穴が Central CV と繋がっていたら？ 高濃度放射性廃棄物はその穴伝って ER21 全体を汚染する・・・ そのために、政府はすべてのベンチレーターやエレベーター・シャフトを嚴重に塞いでいるのかもよ・・・ まっ、そうなったら神経やられて、ここにいる奴みんな即死だな・・・

ルイ、その話を聞き、しばし考え込むが・・・ 不意に顔を上げ「かんちゃん、ありがとう。」と言い放つが早いか、ダッシュで退場する。

びっくりして、ルイを追いかけてやろうとする中村。

中村 おい、ルイ。本気にするな！ ER21 作るのに、一体いくらかかったと思ってるんだ？ たとえ可能でも、政府がそんなことするわけねえだろ！ よっぼどのことでもなけりゃ・・・よっぼどの・・・ ったくよ！

と、中村の背後からカズが登場。

ヘッドセットを付け、目をつむって、マーシャルアーツか、前衛舞踏のような動きをしている。中村、それに気づき、「カズ。」と声をかける。カズはまったく気がつかない。しょうがないので今度はもっとでかい声で呼びかける。

カズ (やっと気付いて、目を開く)・・・その気配は、かんちゃんだな？

中村 気配はって、お前、目で確認してるじゃないか！

カズ ぼくはいま、ビートで活性化している。何処からでもかかってくるよ！

と、またマーシャルアーツか、前衛舞踏のような動き。

中村「コウのまねしちやって・・・」と呟くが、つい遊んで上げちゃう。

中村の右の手刀、カズ左腕で受ける。

左の手刀、カズ右腕で受ける。

正面突きを左手の平で受け、喜んで目を開き・・・

カズ かんちゃん、やったよ。ぼく目を閉じてても・・・

中村は実はまだ攻撃を続けていた。大上段から振り落とされた手刀がカズの脳天を直撃する。

カズ 痛で！ なにすんだよ、かんちゃん！

中村 (手をまたに挟んで痛がっている)お前が、攻撃しろって言うから・・・

カズ 攻撃して、痛がってたらしょうがないじゃん・・・

中村 まさかお前の石頭で受けてくるとは思わなかったもので・・・

カズ ...でもね、かんちゃん。ぼく目をつむっていても、かんちゃんの攻撃が見えたよ。

中村 ほんとか？

カズ やっぱりぼくにも能力があったんだ！ よし能力開発続行だ！

目を閉じ、ゆっくりと舞台袖へと退場していくカズ。

当然のごとく書き割に何度も激突しながら消えていく・・・

中村も、「パチンコ玉か、あいつは？ しょうがねえな、どいつもこいつも…」なんて呟きつつ、退場する……

舞台後方に芹田。傍らにリョウとユウ。  
舞台袖に北田と未来。  
そして、壁に縛りつけられたような形でハルがいる・・・  
遠くで何か巨大なもの同士がぶつかり合う音が響きわたっている。

芹田 あその音が聞こえるだろう？・・・地上では排気塔やエレベーター・シャフトを塞ぐための工事が大規模に進められている。奴等は我々を閉じ込める気なのだ。  
未来 閉じ込めるって言うけど、ぼくら人質が残ったままなんだぞ！ そんなこと・・・  
北田 あるかもよ。  
未来 あるかもよって・・・なに言ってるのかな、この人は？  
北田 時折不安にならない？ 俺たちって、社会に対してそんなに重要なの？  
未来 弱気なおっちゃんだな・・・それにここには KITAZAC があるんだよ、政府が威信をかけた二六〇億円の・・・  
北田 役立たずのおもちゃ。  
未来 って、製作総指揮のあんたが言ったら、なんか悲しくなるじゃんか！  
北田 男の子がそんなめそめそ泣くもんじゃない！ さっ、これで涙をふきなさい・・・  
未来 っているか、こんな布切れ！ それに、お前が泣かせたんだらうがあ！  
芹田 まあまあ、ってどうして、わたしが君達をなだめなけりゃならんのかな・・・

舞台袖から、浅倉登場。

浅倉 ..まあまあ、ええではないの、閉じ込められたって。ここは外部とのいっさいの交渉を絶っても一〇〇年は大丈夫って施設なんだろ？  
芹田 お前は・・・  
浅倉 ..・・・  
芹田 誰だっけ？  
浅倉 ズルッ。(この「古典的なスベリ」をあなたは十年ぶりぐらいで目撃することになるのか！) なんべん自己紹介されれば気がすむちゅーねん！ 美人秘書の「あ・しゃ・きゅ・ら」・・・まっ、いいか。ここが孤島の王国と化したあかつきにはあたしは女王様だからね。  
未来 誰が、女王だ！  
浅倉 あらあら未来君。周りを見渡してごらんささい。ほうら、ここの中で真の女性は私一人。正真正銘「紅一点」って訳！  
北・未 それを狙いだっただのか！  
浅倉 そんなんじゃないけどお・・・ まあ、我にひれ伏すがいいわ、皆の衆・・・ じゃあね。(と、退場しようとする)  
芹田 何処へ行く？  
浅倉 ふふふ・・・ な・い・しよ・・・ (退場)  
芹田 リョウ、奴を・・・  
未来 大丈夫ですよ。きっとトイレです。あの人「近い」から・・・  
北田 最近とみに壊れていってるな。  
未来 いえ、あの方は最初からぶっ壊れてましたよ。  
ハル (とうとうしびれを切らし) 博士、早いところやってくれ・・・  
北田 ああ、すまなかった。でも本当にいいのか？  
ハル グリーン・ファクトリーの修繕が出来なかったら、閉じ込められた俺たちはみんな餓死することになるんだぜ・・・  
芹田 ハルの言うとおりに。早く始めてもらおう。

北田 しかし、神経細胞と KITAZAC のモレキュラー・デバイスとのダイレクトな接続はやはり危険な気がするんだ・・・

ハル 危険は承知の上だ。生体神経レベルで繋がる。俺が KITAZAC に繋がるには、それしかない・・・

北田 お前、その男に言われたからやるのか？

ハル ………

北田 ケイはどうしてこない・・・

ハル ケイは・・・ ケイは怯えてるみたいなんだ。

北田 冷凍睡眠をか？

ハル いや、KITAZAC と繋がるのを・・・

芹田 北田博士、そろそろ始めてくれ。

北田 ……同時にデジタル回線を開いておく。危険を感じたら伝えてくれ。

ハル 分かった。

北田 未来。SQID 装着。

未来 はい。(ハルに SQID を装着)

北田 静脈にカテーテルを。頸動脈にマイクロセンサーを挿入。

未来、北田の指示に従い、腕の静脈に針を突き刺し、次いで、首輪のようにとり付けられたアダプタに針状のマイクロセンサーを注意深く挿入していく。

北田 (計器を眺め)脈拍、呼吸ともに正常。急速冷凍スイッチを入れる。SQID イニシャライズ中。神経プラグを準備。

未来 (太いケーブル状のものを手に持ち)準備しています。

北田 ハルのコネクタに接続。

ケーブルをハルの首の後ろのコネクタ部分にガチッと接続する。

未来 接続完了。

北田 SQID コンソールへ・・・

未来 はい。(舞台脇へ移動、自らも SQID を装着する)体温二〇℃まで低下、全数値正常・・・

芹田 細胞レベルでの接続はすんだかね、博士？

北田 まあね。今の所、順調・・・

芹田 (リョウとユウに)では、後のことは任せた。

リ・ユ はい。

芹田が退場する。

未来 ハイパネーションは順調に進行しています。あと五分で定常状態に達する予定です・・・

北田 (コンソールから顔を上げ、リョウ達に向かい)・・・どう思う？

リョウ 繋がれるかどうかなんて、ぼくらに聞いたって分からないよ・・・

北田 違う。地上の大規模工事について・・・

リョウ ？

北田 政府は本当に我々を閉じ込めるつもりだと思うか？

ユウ 分からない。強行突入の準備のような気がするし・・・

リョウ それにルイが言った・・・

ユウ ホットセルの話か？

北田 ホットセル？

ユウ 地上の核廃棄物保存施設を破壊し、ER21 を核汚染しようとしてるんじゃないかって・・・

北田 核汚染？

リョウ ルイじゃなくて、かんちゃんの考えらしいんだけど・・・  
北田 面白いこと考えるな。人質ごと放射性物質で殲滅ってことか？ まるで三流 SF だな・・・で、リョウはどう考えてる？  
リョウ 俺？ 政府は俺たちを閉じ込めるつもりだと思う。隔離施設へ閉じ込めて、死んで行くのを待つ・・・それが奴等のやり方だ。  
北田 せっかく隔離施設飛び出して来て、テロという手段で社会との関わり合いを持たせて言うのに、またまた隔離か？ 悪夢から醒めてまた悪夢に落ちたって感じか・・・  
リョウ 今度は違う。ここには芹田さんがいる。  
北田 あの男が何だって言うんだ？  
リョウ 救世主だ。ステリルを救うために現れた救世主だ。  
北田 救世主だ？ 笑わせるな！ 豚箱入れられた昔の仲間を取り戻そうとしてる、ただの「武闘派リベラル」くずれじゃねえか！ お前らはただ、そのための兵隊として使い捨てにされるだけだ！ 「ステリルの開放」だ、「失われた人権の回復」だ、奴の掲げたそんな錦の御旗にお前らは躍らされているだけだろう？ どうして気付かねえ・・・

北田の言葉が不意に途切れる。リョウが拳銃を引き抜き、北田に銃口を向けたのだ。

リョウ うるせえ、ぶっ殺すぞ！

ユウがリョウの拳銃を手で抑え込む。  
北田を突き刺すようなリョウとユウの視線。

北田 (目線を外し)・・・すまなかった。言い過ぎたよ。  
未来 ...そろそろ、ハルが定常期に達します。北田さん、生理機能系のデータのモニタリングの方お願いします。  
北田 分かった・・・

ハルへの青白いサスを残し、舞台が暗くなる。  
やがて、そのサスもぶつりと消える・・・

11 In a music box

ケイがたたずんでいる。そこにルイが登場する。

ルイ どうした、ケイ、こんなところで？ お前、ハルと一緒に KITAZAC に・・・  
ケイ やめたの・・・  
ルイ どうしたっていうんだ？ 北田博士だって言ってたぜ。ケイなら、ケイなら KITAZAC にコンタクトできるかもって・・・ どうしても、KITAZAC にコンタクトしなければならないんだ。例のホットセルの件で・・・  
ケイ ホットセルなんか杞憂だってみんな言ってるよ。  
ルイ 思ってるさ、俺だって・・・ ホットセルの爆破なんか可能性としては極めて低いって・・・でも、なんか引かかるんだ。俺にはなんか・・・ だから、それを確かめなきゃ・・・ そう、KITAZAC を使って。それしか方法がないんだ。だから、まずケイが KITAZAC にコンタクトしなければならない。そしてこう言う風にやる・・・ いいか、よく聞いてくれ。KITAZAC は主電源を地上のイプシロンリアクターから受け取っている。その電源ケーブルの周辺には・・・  
ケイ 出来ない・・・  
ルイ なんだって？  
ケイ わたしには出来ないって言ったの・・・

ルイ どうして？  
ケイ ……わたし、KITAZAC に対して心を開くことが出来ないの。心を開かなければ、繋がることは出来ない… SQID を介して KITAZAC は何度もわたしの心に入り込もうとしていた。でも、わたしの心がそれを決して許さない…

ルイ ……  
ケイ ルイ、その理由は…

うつむくケイ、やさしく肩をつかむルイ。ケイの瞳がルイに向けられる…

ケイ その理由は… KITAZAC が「昔の記憶」を蘇らせるからなの。

ルイ 昔の記憶？

ケイ わたしが施設にいた頃の「記憶」… わたしがいた施設は、都市の外れの、山間にある大きなところだった。ルイやユウのいたところとは違って、新しく、清潔すぎるくらい清潔な真っ白な建物だった… 小さな粗末なベッドだったけど、朝は鳥の鳴き声で目を覚ますの。いろいろな山鳥のさえずりが聞こえてきて… そんな施設だった…

また、うつむいてしまうケイ。思い詰めたような顔… しかし、決心したかのように顔を上げ、言葉を継ぐ…

ケイ 園長は優しい顔をした神父だった。嫌っている子も中にはいたけど、おおむね評判はよかった… ある日のこと、その神父が私のことを部屋に呼んだ。そして、開いた聖書を手渡し、朗読しなさいっていうの。マタイの福音書の一節… 「すべてのことは父から私に任せられています。そして、子を知る者は父の他になく、父を知る者は、子と、父をあらわそうとして子が選んだ者のほかに、誰もありません…」

ルイ すべての重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとに来なさい。あなた方を休ませて上げよう…

ケイ 私は聖書を閉じて、その先を続けたの…「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう…」彼はわたしの暗唱を褒め、そして甘いクッキーをわたしの口の中に放り込んでくれた。とっても甘い、頬の奥が痛くなるほど甘いクッキー… 彼はわたしの唇を拭いて、そしてきれいな小さなオルゴールを差し出したの。わたしの目の前で、その可愛いふたが開き、そして聞き覚えのある曲が流れ出す。パッハの何とかって言うミサ曲… オルゴールの中には、口紅がひとつ入ってた。彼はそれを手に取り、わたしの唇に薄く紅を引いたの。真っ赤な、血のように赤い口紅だった… そして、わたしの髪を撫で、こう言うの。わたしのことは何でも知っているって… だから、わたしも彼のこともっと知らなければならぬって… ひざまずくわたしの前で立ち上がり、そして… (ルイを見つめ) ねえ、ルイ。

ルイ ……

ケイ KITAZAC とのコンタクトはその時にどこか似ているの。KITAZAC の触れ方が、その男にどこかそっくりで… いんぎんで、それでいて強引にわたしの心に侵入しようとする。分かってる。わたしが心を開けば、KITAZAC と繋がれるって。でも、怖い…

ルイ (ケイの手を握り)…分かった。もう無理強いなんてしない…

ケイ いいえ、わたしが必要以上に怯えているだけ… ルイがこうしてそばにいてくれたら、きっと… きっと、繋がれると思う。だから…

ルイ ケイ…

その時、リョウが舞台に飛び込んでくる。  
ルイは電光石火の早業でケイの手を振りほどく。

リョウ ルイ、ここにいたのか。  
ルイ どうした？  
リョウ ハルが・・・  
ケイ ハルがどうしたの？  
リョウ とにかく、医療診断ユニットへ！

舞台袖に消える、リョウ。  
リョウのあまりの剣幕に、思わず後を追う二人・・・

## 12 Sham attack

書き割につなぎ止められたハル。  
傍らに北田と未来。

未来 ハルの頭頂部周辺の電波がどんどん強くなっていきます。  
北田 インタプリタはオンになっているのか・・・  
未来 はい。通信のようです。今、音声に変換します・・・  
ハル (まるでテープをゆっくりと回したかのような声)・・・開放ゲートより侵入者。開放ゲートより・・・  
北田 周波数変調を。  
未来 はい。周波数を変えます。  
ハル (普通の声になる)・・・開放ゲートから武装警護部隊が侵入してきている。  
北田 なんだって？ おい、ハル。今なんて・・・ 未来、双方向受信可能か？  
未来 はい、そのはずですが・・・  
ハル ルイに伝えてくれ。武装警護部隊が開放ゲートより侵入・・・  
北田 ルイはまだか？ リョウは何をやっているんだ！

コンソールの前のマイクに向かい叫ぶ、北田。

北田 緊急事態だ、ルイ。ヘッドセットを付けて早く！ 未来、ハルの接続を今すぐ終了するんだ。  
未来 分かりました。終了シーケンス開始・・・  
ハル 待ってくれ。このまま接続したままで・・・  
未来 このままだと無防備なままだろう。  
ハル この方がいい。ER21 内のすべてのセンサーが繋がっている。第一、終了シーケンスが始まったら、十分間は戦闘不能になるだろ・・・

舞台脇にルイ、ケイそして芹田が飛び出してくる。  
皆、ヘッドセットをつけている。

ルイ (ヘッドセットに向かい) 北田博士、連絡ありがとう。あとの指揮は我々が行う。我々の指示に決して逆らわないこと。いいね？ ハル、聞こえるか？ ハル・・・  
ハル 聞こえてる、ルイ。  
ルイ ハル、現在の状況分析を・・・  
ハル ...武装した一群が開放ゲートより侵入し始めている。  
ルイ 人数は？  
ハル 三〇名以上。通路に設置されたセンサーから送られてくる音響データのための解析だが、それぐらいの規模だと考えられる。それに・・・  
ルイ どうした？  
ハル 開放ゲートの周辺にかなりの兵力が集められているようだ・・・  
ルイ リョウ、ユウ。人質達を第四倉庫に。

銃を構えたリョウとユウ。浅倉と中村を連れて登場する。  
銃を突きつけられ、騒いでいる浅倉と中村。

浅倉 なんなの？ なんだっつーの？  
中村 おいおい、リョウ。なに銃向けてるんだよ・・・

ユウ、突っ立っていた北田と未来にも銃を向け…

ユウ すみませんが、しばらくの間倉庫の中に入ってください。

手を上げ、それに素直に従う北田と未来。  
銃を向けられたまま、浅倉、そして中村とともに舞台後方へと移動する。

浅倉 一体なんなの？ ちょっとユウ、状況説明してよ！

ユウ あなたがたの安全のためです。

浅倉 安全のためって？ ちょっと待って、何か動きがあったって言うの… もしかしたら、武装警護部隊が？

リョウ ちょっと黙ってる！

リョウ、浅倉を押しやる。

倉庫の扉が閉じる音。「何すんのよ！ 暴力はんたーい…」と叫ぶ浅倉の声もその音響とともに消える。

ユウ (ヘッドセットに向かい) 人質全員を第四倉庫に收容。

ルイ 開放ゲートに通じる通路へ向かい、コウ達と合流せよ。

それに答え、舞台中央に駆け出す、リョウとユウ。

いつのまにか舞台の中央にコウとカズ。コウは M2 Machine Gun を腰だめに抱えている。

ルイ コウ、カズ。そのまま待機。敵の出方をうかがうんだ。ハル、動きは？

ハル 奴等は工兵部隊だ。探知機を使ってブービートラップの処理を行っている。手慣れたものだ。言葉ひとつ交さない… 完全な隠密行動だ。その後方にまた別の一群が侵入を開始したようだ…

ルイ 武装と規模は？

ハル 音から察するに…武装は中機関銃程度。重騎兵様三十名ご入場ってところだ。

リョウ やる気丸出しだな…

ハル ああ、ほんと。俺が見つけなきゃ、この SQID 使ってなけりゃ… あちらさんの奇襲大成功と言ったとこだったのにな。

芹田 中央突破ということか。エレベーター・シャフトやベンチレーターを塞いだのは、こちらの退路を断つためだったというわけだな…

ルイ (芹田を横目で伺い、考え込む仕草)ハル、通路の周囲の岩盤には異状はないか？

ハル いや、通路だけだ。どうした？

ルイ いや、なんでも。(ひとりごちて)正面切っただの奇襲作戦… 戦力を集中し、ピンポイントで囲いを破る… 「穴熊を破るには戦力を一点に集中しろ」か… でも、直径三メートルに満たない穴の中、五〇名の兵力を送り込んでくるのは…

ケイ 代償が大き過ぎると？

ルイ ああ。

芹田 だからこそ、隠密行動しているわけだろう。奇襲だからこそ成功する作戦だ。

ケイ しかし、奇襲はすでにばれている…

芹田 戦力を集中して、撃破するんだ。

ルイ コウ、カズ。通路の中間地点まで前進。リョウとユウも後に続け。

コウ、カズら、それに頷き、前進を開始する。

ルイ ハル、重歩兵の戦力をもう少し分析できないか？  
ハル 三〇口径の中機関銃、給弾ベルトのぶつかりあう音が聞こえる。グレネードランチャーも待っているようだ… おっと、工兵部隊がゲートより五〇mまで侵入した。  
ルイ コウ、通路の中間地点で待機。こちらの合図で、弾幕を張れ。脅かしてやるだけでいい。あちらさんは奇襲作戦不成功で撤退を余儀なくされるはずだ。

コウ、ヘッドセットの位置を直し、カズの持っている再生機を小突く。

コウ ……カズ、今日の奴は？  
カズ ちょークールさ。ちびるなよ。  
ハル コウとの距離が三〇〇mを切った。  
ルイ さあ、コウ。ライヴといこうか！

カズが再生機のスイッチを押す。流れ出す、パンクミュージック。  
コウの全身に尋常でない力がみなぎり、そしてM2が一分間に五五〇発の速度で火を吹く。  
負けじとリョウとユウも弾丸をまきはじめる。  
叩きつけるようなパンクロック、そして銃弾の発射音が空間を埋め尽くす。  
と、クロスフェードで第四倉庫に明かり。  
一人ばたばたしている浅倉…

浅倉 ……なにに、この音？（周りの人質に）ねえ、ねえ、なんなの、皆さん、これは、一体？  
中村 なんなんだ？  
未来 どうとう始まりましたね。  
北田 そのようだな…  
浅倉 未来君、始まったて、なに？ 先生、なに訳知り顔で顔いちゃったりしてるわけ？

と、照明クロスフェードで戻る。  
ひゅーんという何かが飛来する音。  
背を伏せるコウ、カズ、リョウ、そしてユウ。  
その後方で爆音！

リョウ なんだ今の？  
ユウ ミサイルか？  
ルイ どうした？  
ハル ミサイルだ！ 奴等、ミサイルランチャーを使っている！  
リョウ こんな穴蔵の中でミサイルだっていうの？ 何をしたいんだ？  
ハル レッドアイ、ホーミングミサイルだ。赤外線感知型の…  
ケイ ハル、対人型に改造されている可能性は？  
ハル 分からないが、可能性はある。体温を検知して…  
ルイ 撤退だ。カズ、コウに伝えろ！ 通路の最後部まで退却するんだ。ハル、通路の温度調節は行えるか？  
ハル 埋め込まれた配水パイプの温度なら…  
ルイ 配水パイプの温度をあげて壁面温度を上昇させろ。もしかしたら、赤外線感知システムを攪乱できるかもしれない。  
ハル 分かった。  
ルイ 全ステリル兵士は開放ゲートへの通路へ集合せよ。開放ゲートの通路を死守するんだ。繰り返す…

コウ、すっと立ち上がり、M2を抱えたまま、目を閉じ、首を傾げる。まるで聞き耳を立てているかのよう……

カズ (コウの袖を引っ張り)コウ、撤退だよ。撤退するんだ！  
コウ ………(そのままの姿勢でゆっくりと後退し始める)

ゆっくり後退していく四人。  
そして、ミサイルの飛来音。

ユウ ミサイルだ！ 伏せろ！

ユウ、リョウ、カズ伏せるが……  
コウは前方に向け、M2を「たったっ」と撃つ。  
前方で花火のように炸裂するミサイル。

ユウ ミサイル、撃ち落としたのか、コウ？  
コウ ………  
リョウ すげえ……

ゆっくりと後退する四人。

ルイ 通路付近に全兵力を集中せよ。敵の中央突破を阻止するんだ。向こうが狭い通路の中  
にいる内は、こちらの優勢は揺るがない。ER21 への敵の侵入を阻止できる。  
ハル 通路内温度三五℃に上昇。やはりミサイルの赤外線感知システムが攪乱されている……  
カズ 違うよ、ハル。コウが撃ち落としてるんだよ、ミサイルを！  
ハル ミサイルは秒速三〇〇mだぞ。それを……  
リョウ 撃ち落としてるんだよ、コウは。

ミサイルの飛来音。コウが撃つ。炸裂するミサイル……

ハル すげえ……  
ルイ カズ、M2の弾薬の残りは？  
カズ 四〇発ぐらいは残ってる。  
ルイ 三〇名の重武装兵が一人一台のミサイルランチャーを抱えてきたとしても、三〇発か……  
ユウ、とにかくゆっくりとでも撤退するんだ。やがてコウの弾薬も尽きる。戦線を ER21 側  
に移し、迎撃態勢を立て直すんだ。そこにM2の弾薬も運ばせておく。  
ユウ 分かった。

ゆっくり後退していく四人。  
またしても、ミサイルの飛来音。コウが撃つ。炸裂するミサイル……

ルイ 全ステリル兵士に告ぐ。集結地点にてコウ達の合流を待ち、至急迎撃態勢を整えろ。ハ  
ル、ミサイル部隊の最前線は今何処だ？  
ハル 開放ゲートより五〇m付近。さっきからほとんど前進していない。それに、工兵部隊が撤  
退していくぞ。  
ルイ 工兵部隊が撤退？ すべてのブービートラップを無力化していないのに？  
ハル ああ、前進を諦めたってことだろっ。奇襲作戦大失敗の巻だな……  
芹田 ルイ、全軍を前進させ、すべてを撃破するんだ！  
ルイ ………

芹田 どうした、ルイ？  
ルイ ……俺たちは前線を後退させてるんだぞ。それは向こうにだって分かるはずだ。より敵陣深く侵入してきていいのに… 何故前進を諦める。それに、ミサイル部隊の攻撃はなんなんだ？ 考えようによっちゃ、「めくら撃ち」に近い…

ハル ルイ、お前何を考えてる…  
ルイ ハル、おかしいと思わないか？  
ハル なにが…  
ルイ リョウ、ユウ、そこはコウとカズに任せ、すぐに ER21 に戻れ！ 全速力でだ！  
ハル おい、ルイ？  
ケイ どうしたの、ルイ？  
ルイ もしかしたら… (はっと気付き)ハル、他の侵入経路をサーチしろ！  
ハル 他の？  
ルイ エレベーター・シャフト、ベンチレーター…  
ケイ ちょっと待って、それはすべて奴等によって塞がれてしまったはずでしょ？  
芹田 そうだ、ルイ。我々に退路を断つために…  
ルイ 芹田さん。それを塞ぐ前に、少数の特殊部隊を潜入させていたとしたら？ ワイヤを垂らし、五〇〇mの垂直降下を行っているとしたら… その間に正面からフェイクの集中攻撃を仕掛けて、我々の戦力を最前面に集中させておき… そして無防備な背後から完膚無きまで叩く…

芹田 ルイ、それは考えすぎだろう… とにかく、コウを前に進めて…  
ハル (驚いたように)ルイ、中央エレベーター・シャフトに音響反応あり。もしかしたら…  
ルイ やっぱりだ。正面からの攻撃は、陽動作戦だ！ 本当の敵は背後にいる！ ユウ、リョウ、グループを率いてエレベーター・シャフトに急げ！

芹田 待て、私が見に行こう。まだ、侵入者とは…  
ハル E4ベンチレーターにも反応あり！  
ルイ ユウ、グループを二つに分けろ。リョウ、分隊を率いてE4へ！ 急げ！  
ハル 畜生！ なんなんだ、電腦空間に空白が… KITAZAC なのか？  
ルイ どうした、ハル？  
ハル 分からない。何か… いや、KITAZAC が何か言っている…  
ケイ KITAZAC が？  
ハル ケイ、助けてくれ。俺には聞き取れない。KITAZAC が…  
ケイ ルイ、私行ってくる。(駆け出す)  
芹田 私も行こう…  
ルイ 芹田さんは、ここに。芹田さんは司令官なんですよ。  
芹田 ……  
ルイ 分かりました。ケイをよろしく願いいたします。

ケイを追い、駆け出していく芹田。

ハル くそつたれ。よく見えないだろっ。邪魔をするな。くそ、いったい何を言ってやがるんだ？  
ルイ ハル、しっかりしろ。今、ケイと芹田さんがそっちへ向かった。  
ハル ルイ、西側エレベーター・シャフトにも反応があった！ まずい、こいつはかなり下の方まで来ている。息遣いまで聞こえる…  
ルイ カズ、コウとともに後退しろ。ブービートラップがある限り、敵の侵入は無い！ 今から俺は西側エレベーター・シャフトに行く。  
カズ 分かった。僕らも西側エレベーター・シャフトに直行する。

カズ、コウの裾を引っ張り、コムをはぎ取り、そしてともに西側エレベーター・シャフトへ急ぐ(退場)

ハル      KITAZAC が何か言っている。空白空間がどんどん広がっていく。ケイ、早く来てくれ！  
ルイ      ケイ、聞こえるか？ 北田博士を連れていけ。そして、早く、ハルの接続を切断するんだ！

ルイ、銃を引き抜き、コッキングピースを引き、そして駆け出す。

ハル      …まるでスプロールだ。電腦空間が… 空間が、虫に食われたように消えていく…

ハルの言葉に呼応して、舞台もまた、急速に消失する。

### 13 Like another gun

舞台上に踊り出るルイ。舞台正面を向き、走る…

ルイ ……ハル、大丈夫か？ 答えろハル。

ヘッドセットにノイズが走る。悪態をつき、ヘッドセットを外し、降ったり叩いたりしてみる。もう一度耳にあて…

ルイ 聞こえるか、ハル？ (ノイズ)……くそ！

怒りのあまり、ヘッドセットを投げつけようとした、その時…  
傍らを一緒に走っているものの姿が視界に入る。  
なんと、中村である。

中村 よお！  
ルイ (つい挨拶してしまう)やあ…

しばらく、ごく普通に並走している二人。が、事の異常さにふと気づいてしまう、ルイ。

ルイ ……って、あんた、なんでここにいる。

中村 逃げてきちゃった。

ルイ 逃げてきちゃったって？

中村 ケイが博士連れ出したときに、さってな感じで… 周りでどっかんどっかん起こってるときに閉じ込められてるっていうのは精神衛生上よくないぞ！

ルイ 一体何を考えてるんだ？ 武装警護部隊がここに侵入してるってときに…

中村 だからだろ！ お前を助けるためにこうやって駆けつけてきたって訳だ！ ほんとは会ったの偶然みたいなもんだけど…

ルイ あのね、かんちゃん、あんたは人質なんだぞ！

中村 それがどうしたっ！（逆切れ？）

ルイ それに丸腰でどうやって助けようってわけ？

中村 丸腰がどおしたっ！（逆切れ？）

と、一人の男が走り込んできて、逆サイドにつく。

北田博士じゃん…

北田 よう！

中・ル (つい挨拶してしまう)やあ！ ……って、北田博士、なんでここに？

北田 逃げてきちゃった…

ルイ あんたはケイと一緒に…

北田 あっ、その役、未来に譲った。そんでもって、逆側に逃げてきたら、「奇遇ね」って感じで… ぱったり会ったってわけ。あれ、さっきまで浅倉もいたんだけど…

ルイ いいか、今は危険な状況だってことをわきまえてね。この先のエレベーター・シャフトから敵が侵入してきたってシチュエーションなんだ。

中村 敵？

ルイ 武装警護部隊。

北田 ってことは、味方？

ルイ 誰の？

北田 俺の・・・  
ルイ 博士、即死したい、ここで？  
北田 すまん・・・

エレベーター・シャフト付近についたようだ。壁面に身を寄せる三人・・・  
ノイズに混じってハルの声が聞こえてくる。ヘッドセットを付け直すルイ。

ハル (ノイズ)・・・ルイ、聞こえるか？ (ノイズ)ルイ？  
ルイ 聞こえる、ハル。ケイは着いたか？  
ハル ああ・・・(ノイズ)  
ルイ 終了シークエンスは？  
ハル まだだ。お前の方が終わったらだ・・・  
ルイ ハル、何を言って・・・  
ハル 危険だぞ、ルイ。武装兵士がすでに侵入している。その付近にいる・・・(ノイズ)  
ルイ ハル？ ハル・・・

ただならぬ周囲の気配に緊張する三人。  
マグライトを点灯し、銃口を向け周囲を走査するルイ・・・

中村 ルイ、そのライト逆に危なく・・・  
ルイ しっ！

その瞬間、一発の銃弾がマグライトを撃ち抜く。弾かれたように転がるマグライト。転がりながらもルイの拳銃が火を吹く！

ルイ 伏せろ！

言われなくても、すでに這い蹲っている二人。  
マグライトを持っていた左腕がしびれて言うことを聞かない。  
ルイの意識がその左腕に移った一瞬、舞台後方に黒づくめの男が手品のように出現する。  
黒のジャンプスーツに、同色のボディーマー。黒いニットの目出し帽をすっぽりとかぶっている一人の男。手には拳銃。赤いレーザーの輝点がルイの額にで揺らめいている・・・  
ゆっくりとルイに近づいていく男。  
ルイはまったく動けない。  
と、突然弾かれたようにルイの前に走り込む中村。  
盾にでもなろうっていうのか？ いや、違う。ルイに抱きすくめられるような姿勢を取り、ルイの銃口を自分のこめかみに突き付けやがった！

中村 ...助けてくれ。俺は人質なんだ。City Energy 社の中村勘介だ。人質リストにも載ってるよね・・・ 銃口を下ろしてくれないか。頼む・・・

臭すぎる演技だ・・・  
黒づくめの男のレーザーがそんな「大根役者中村勘介」の眉間に向けられる・・・ ルイが「あぶねえ！」と叫び、中村を突き飛ばすのと同時に、弾丸が二人の間を射抜く！

中村 今のなに？  
北田 なになって、お前。演技臭すぎなんなもん。ムカツ腹たって、つい引き金引いちゃうだろ、なあ？

と、呼ばれてもいないのに、つい、しゃしゃり出てしまう北田。  
ルイに向けられていた男の銃口が、一瞬北田の方を向き、冗談のように発射される銃弾。  
すんでのところで、身をかわす北田・・・

北田 (大層、びっくりしちゃって)・・・お前、なにやっとなの？ 私はかの北田博士だよ。救出優先順位でも、トップ中のトップ・・・

ルイ 下がれ、北田博士。それ以上近づいたら、こいつはあんたを撃つ。

後退する北田。銃口を向け合ったまま、微動だにしない黒ずくめの男とルイ。  
男の目出し帽の上からでもはっきり分かるような、細かな痙攣。笑っているのか？

ルイ ……一体、お前は？

その時、唐突にヘッドセットからカズの声。  
舞台袖にコウとカズ。

カズ (ヘッドセットに向かい)・・・ルイ？ 聞こえる、ルイ？ (コウに)・・・だめだよ。雑音がひどくって・・・

ルイ カズ・・・

カズ ルイ？ 何処にいるの？

ルイ よく聞け、カズ。オレクトイク・・・

カズ だめだよ。逆さ言葉は、かんちゃんに・・・

コウ、カズのマイクを手のひらで押さえる。ただならぬ気配を感じたのだ。

コウ 聞くんた。逆さ言葉・・・

ルイ オレクトイク・・・

カズ 気を付けろ・・・

ルイ イケチナカノンロオハアテエベレ・・・

カズ エレベーター・ホールの中に敵・・・

ルイ オイエスインニセテラカウィネタツフ。

カズ 二手に分かれて侵入せよ・・・

コウ、カズに無言のまま、顎で合図。頷く、カズ。身をひるがえし、ともに舞台袖に消える。

男 ……仲間か？

ルイ 口がきけたんだな・・・

男 ……

ルイ おまえ、よく言われるだろ？ 「おしゃべり」だって・・・

と、舞台側方で大轟音。壁の向こうからの M2 Machine Gun の連射だ。

身をひるがえし、逃げを打つ黒ずくめの男。

北田と中村も頭を抱えてうずくまる。

五〇口径のライフル弾の狂ったような連射。壁にいくつもの穴が空いて・・・ そして、壁が崩れる。もうもうとしたけむりの向こうに、M2を抱えたコウの姿。

黒ずくめの男、左手でもう一挺の拳銃を引き抜き、ルイとコウに向かい銃弾を浴びせる・・・ 身をかわす、ルイとコウ。

と、カズの声！

カズ      そこまでだ！ 武器を捨てなっ！

舞台後方に腰だめでサブマシンガンを構えている。赤いレーザーが黒ずくめの男の頭に一直線に突き刺さっている。

カズのヘッドセットから激しいビートが漏れて響きわたっている…

黒ずくめの男、観念したように銃把を放し、トリガーガードに指を掛けたままの状態でぐるりと銃を下向きにぶら下げる。手をゆっくり上げ、カズを見る。

カズ      やったよ、コウ！ ぼく、壁の向こうからでも敵の位置が分かった。奴がどんな姿勢で何処に立っているか、ちゃんと見えたんだ。これ、(ヘッドセットを指さし)コムから流れるハイパービートで、ぼくもコウになれた…

男      (呟くように)負けたよ。降参だ… 「二手に分かれて侵入せよ」か？ オイエスインニセテラカウイネタツフ…

ルイ      お前、今なんて？

男      逆さ言葉を理解できるのは、お前達だけとは限らないだろ？ おいおい、驚くのはこれからだぜ…

カズ      …やっぱり、思ったとおり、ぼくにはコウと同じ「能力」があったってことさ。

カズのセリフの間に、後方にもう一人の黒ずくめの男が現れる。

手に持った銃の銃口がカズの頭を狙っている…

中村      カズ！

カズ      (気付かず)…この「ステリル」はコウとぼくで、もう怖いもの無しって訳だよ…

黒ずくめの男は手を上げたまま、言葉を続ける…

男      どうしてもう一人いることに気付かなかった？ (ルイに)銃をホルスターしまえ。(コウに)そっちのでかいの。フィーディング・ランプを抜き、機関銃を下に置くんた。ゆっくりとな… おっと、そんな深刻な顔をするなよ。その子に気付かれるだろ？ 気付くと同時に脳みそがなくなってしまうだろうが…

カズ      さあ、武器を捨て、そして手を頭の上に組んで、膝立ちになるんだ…

男      (頷いて)分かったよ、ぼうず。…でかいの、機関銃から離れるんだ。そうだ。ゆっくりと…

カズ      さあ、武器を捨てな。捨てろって言ってるんだよ、こんちくしょお！

男      …おい。白屋夢から冷めぬうちに、そのガキの頭を吹っ飛ばせ！

黒ずくめの男、ぐるりと手首を回転させ、銃把を握り直す。

後方の「黒ずくめ」が引き金を絞る。

コウが電光石火の速度で駆け出し、カズを抱きすくめる。

銃声！ 後方の「黒ずくめ」が弾かれたようにぐるりと回転し…

そしてまた銃声！ 後方の「黒ずくめ」の頭が爆竹のように爆ぜ、どさりと倒れる。

先の黒ずくめの男、「どうした？ くそ！」と叫び、拳銃をルイとコウ、カズに向け発砲しようとした、その刹那… 轟く銃声！

男の両の手に握られていた拳銃が弾き飛ばされる。反動で倒れ込む、黒ずくめの男。

舞台後方の両翼にリョウとユウが拳銃を構え、立っている…

ユウ      逆さ言葉を聞いたのは、お前ばかりじゃなかったってことだ。

ルイ        リョウ！ ユウ！  
リョウ      ぎりぎり間に合ったぜ。心配すんな。他の奴等はシャフトの中で今ごろローストチキンに  
なってる…

リョウ、ユウ舞台前方に走り出てくる。銃口は黒ずくめの男に向けられたままだ。

ユウ        ルイ、特殊部隊だなこいつら…  
ルイ        ああ、そのようだ。

頭抱えて縮こまっていた中村と北田が、今にも泣きそうな声で…

北・中      ……終わった？  
ルイ        終わったよ。怪我なかったか、二人とも？

その時、舞台後方でカズが悲鳴を上げる！

カズ        コウ！  
リョウ      どうした？  
カズ        コウが背中撃たれた！  
リョウ      なんだって！  
カズ        コウ！ しっかりして、コオウ！

舞台が暗くなっていき、コウとカズへのサスだけに変化する。  
震える指でカズのヘッドセットを指さし、次いで自分の耳を指さす。  
ヘッドセットからざらついた音が、低音の切り捨てられた「しょぼいビート」が、小さく漏れ  
出ている…  
ヘッドセットをコウの頭にかけてやるカズ。  
目を閉じ、それに聞き入るコウ。  
コウはにんまりとし、右手の親指を突き立てる。  
カズの肩を強くたたき、コウ。そして、湿った悪い咳…  
コウの呼吸が止まる。  
ヘッドセットから流れ続けている、高音だけのざらついた、だけどクールなビート。そして、  
カズのすすり泣き。  
舞台がゆっくりと暗くなっていく…

## 14 Harsh noise

舞台奥ではコウが横たわっている。手の指を組んで…  
放心したようなカズ。リョウがカズの顔をのぞき込んでいる。  
舞台中央に捕らえられた黒ずくめの男。ユウが銃を突きつけている。  
ルイ、少し離れて北田。  
中村がその捕虜のベルトからナイフを引き抜き、傍らに置く。  
叩くように身体検査をしつつ…

中村 ……これで全部か？

ふと、ベストにくくりつけられていたグレネードに気付き、それを外す。

中村 グレネードまで… 敵つい武装だな。  
ルイ 突入メンバーの数は？  
男 ……  
ルイ かんちゃん、そいつの覆面を取るんだ。  
中村 ああ。

覆面を剥ぐ、中村。マスクの下から出てきた顔はまるで少年のようである。

中村 おい、まだ子供じゃねえか…

その時、ユウが何かに気付き、男の腕を取る。手の中に薄刃のナイフ。  
銃を突きつけるルイ。ユウがナイフを取り上げ、放り投げる。

ユウ リョウ！  
リョウ ……(気付かない)  
ユウ リョウっ！ こっち来て、奴の手を縛ってくれないか？

リョウ、カズの頭を撫でて、立ち上がり、前方へ歩き出す。  
ユウ、男の腕をまじまじと見る。その袖をまくり上げ…

ユウ ルイ、これ…

と、男の腕をルイに示す。そこにくっきりと「ステリル」の入れ墨。

ルイ ！  
中村 ステリル？  
リョウ ステリルだって！

カズが男の方を向く。

ルイ ステリルなのか？ 何処の施設にいた…  
男 お前達と一緒にするな。…優秀なステリルは皆、兵士になる。シロアリがアリ塚を守るため、生殖能力のない強い兵士を大量に作り出すように… 社会が我らステリルを生み出した。我々は社会を、その秩序を守るために生まれてきたんだ。生殖能力のない我々は、人類という種の存続のためという崇高なる目的によってのみ生き、そして死ぬ。お前

らは、何故道を踏み外した？  
カズ 道を踏み外す… ぼくたちは道を…  
ルイ 違う、カズ。  
カズ その人はステリルなのに、どうしてぼくたちを殺そうとするの？ どうして、コウを殺したの？  
ルイ カズ。  
カズ 同じステリルなのに…  
ユウ (リョウに)早く縛れ。

リョウ、男を後ろ手に縛り上げる。  
中村、その男の背囊の中から、円筒状の物体を取り出す。

中村 なんだこりゃ？

いじっていると、不意に先端から鋭い針が突き出してくる。驚く、中村。

北田 インジェクタか？ お前ら、毒ガスでも使おうとしていたのか？

男はなにも答えようとしない。北田、中村に近づき、インジェクタを受け取る。

北田 毒ガス対処のためのアトロピンにしては、やけにでかいな…  
中村 これが解毒薬だって言うの？ どう見たって薬には見えない。それに毒物のマークでかかか…

北田 (かかっている文字を読む)  $\alpha$ -ブングロトキシン… 作用はアトロピンに似ているが、毒ガス対策でこんなもん打ったら即死だな。

ルイ なんなんだそれ？

北田 アマガサヘビっていうコブラの仲間から見つかった神経毒。コリン受容体に固く結合し、神経伝達を阻害する。昔、神経伝達素子や回路の研究によく使ったもんだ。少量で猛烈に効くから…

ユウ 神経毒？

北田 (針を引っ込めて)もし体内にはいったら、筋肉麻痺、瞳孔拡散なんてお決まりの症状を呈した後、呼吸が停止する。お前、どうしてこんなもんを？

男 ………

北田 それもこんな量。知ってると思うが、こいつは耳かき一杯で一〇〇人殺せる神経毒だぞ。  
リョウ 飲み水にでも入れよう？

北田 いや、たんぱくだから経口では毒性が極めて低くなる… 注射が一番だ。こんなインジェクタを使って…

リョウ でもこのでかさ、お前、シロナガスクジラでもでも殺す気だったのか？

ルイ (考え込んでいたが、ふと)北田博士？

北田 なんだ？

ルイ もしかしたらただけど、ここには人間以外にも神経毒が効くものがあるんじゃないか？

北田 人間以外に？ ……ねずみか？

ルイ いや、我々に類似した神経回路を持つもの…

北田 !! ……KITAZAC? たしかに KITAZAC はコリン・リセプター様の伝達回路を含んでいるが、でもどうやってこの毒素をその中まで…

ルイ 今、KITAZAC はハルと生体細胞レベルで繋がっているんだ。もし、これがハルに打ち込まれてたら…

北田 お前、KITAZAC を破壊するために来たっていうのか… でも何故だ？

唐突にルイのヘッドセットにノイズが沸き起こる。  
ノイズの中にハルの切迫した声が混じっている。

ハル ……ルイ！（ノイズ）…頼む答えてくれ！

ルイ ハルか？

ハル ルイ、助けてくれ！（ノイズ）…見逃してたんだ。電算室のベンチレーター、この部屋の背後の…（ノイズ）…頼む KITAZAC、静かにしてくれ！（ノイズ）…今、音声反応を感じた。この部屋の背後のベンチレーターで、たしかに感じたんだ。敵が…（ノイズ）敵がすぐそこにいる！

猛烈なノイズ…

ルイ ハル！ ……しまった。インジェクタを持ってるのはこいつだけじゃないだ！ ハルが危ない！

北田 それだけじゃない KITAZAC だって…

ルイ リョウ、ユウ、そいつを連れて、ハルのところへ！

ルイ、脱兎のごとく退場。北田もその後を追う。  
リョウとユウ、黒ずくめの男を追い立てて、退場。

中村 （決めあぐねているが）カズ、ここにいろ。かんちゃんすぐ戻るから…

と、中村もあとを追う。一人残されたカズ。コウを見つめて唇を噛む。  
黒ずくめの男が持っていたグレネードを見つめるカズ。  
何かを決心したかのようにそれを両手で抱え、そして走り出す…

15 Hear the roar of a big machine

薄暗い部屋。緊迫の静止画・・・

KITAZAC に繋がれたハル。その傍らにインジェクタを手に持った黒ずくめの特殊部隊兵士。そして、そいつに銃を向けているケイ。その横で立ちすくむ未来。

そこし離れたところで芹田が銃を構えている。

舞台後方からルイが駆け込んでくる。ルイ、両の手に握った二丁の拳銃を特殊部隊兵士と芹田(!)に向ける。

ルイ 武器を捨てろ！  
芹田 (拳銃を向けられて、多少動揺する)・・・ルイ、私だ。

ルイ、芹田の方をちらりと伺い、向けていた銃を下ろす。  
インジェクタを手にした男に銃口を固定しにじり寄るルイ。  
と、駆け込んでくる北田と中村。

北田 未来君！ KITAZAC は？  
未来 北田さん・・・  
ルイ (北田に)危ない。わきへ・・・

リョウとユウが「黒ずくめの男」を引き摺って登場する。

ルイ そのインジェクタを捨てろ！ さもないと・・・

特殊部隊兵士のインジェクタを持つ腕から徐々に力が抜けていく。  
それを見て、「黒ずくめの男」が叫ぶ！

男 やれ！ 早く突き立てろ！ そいつを介して毒素が KITAZAC に達する・・・

リョウが銃把で「黒ずくめの男」を殴りつける。膝から崩れる「黒ずくめの男」。

男 兵士の誇りを持て！ 死を恐れるな！ 我々が消滅しても、名誉は永遠に・・・

震えながらもインジェクタを振り上げる特殊部隊兵士。  
ルイの引き金にかかる指に、ケイの指にも、力がかかる。  
銃口が火を吹こうとしたその刹那、グレネードを抱えたカズが走り込み、特殊部隊兵士に体当たりをする。  
グレネードの安全ピンに指を掛けたカズ。あまりの迫力に全員たじろぐ。

カズ 手榴弾でこっば微塵だ。注射器捨てたってもうだめだよ・・・  
中村 止めろ、カズ！  
カズ 僕らはここで死ぬんだ。戦うのなんてもう嫌だよ。ねえ、君もステリルなんだろう？  
兵士 .....  
カズ どうしてステリル同士で殺し合うの？  
ルイ カズ。  
カズ ルイ、ぼくらはなんと戦っているの？ なんのために？ ステリルの開放？ ステリルの自由？ ...だったらどうして、ステリル同士が殺し合うの？  
ルイ .....

カズ ぼくわかんなくなっちゃった・・・  
ケイ カズ、わたしたちは・・・  
カズ ケイ、ぼく、コウを殺した・・・  
ケイ ！（ルイを見る）  
カズ もう、天国へ行けない。死んでもコウに会えない。神様が許さないもの・・・  
ルイ コウが死んだのは、カズのせいじゃない・・・  
カズ 違うよ！ ぼくだよ。ぼくがコウを殺したんだ！

カズがグレネードのピンをカー杯引き抜く。  
大きく弧を描いて飛ぶ安全レバー・・・  
頭を押さえ、腰をかがめる特殊部隊兵士。  
カズを守ろうと必死に走り込むケイ。  
ケイがカズに激突した拍子に舞台前方へと転がるグレネード・・・  
黒ずくめの男の叫び声。

男 ひるむなっ！ よく見ろ。そいつはただのスタングレネード、閃光弾だ！

カズをきつく抱き締めるケイの視線が転がっていくグレネードをに向く。

ルイ 閃光弾？ ケイ、見るな！ 目を守れ！

ケイの二つの瞳は転がっていくグレネードを見つめたままだ。  
と、すさまじい閃光、そして炸裂音！ 一瞬、舞台の情景が白昼のように浮かび上がる。  
ケイの色の薄い瞳が光を反射して金色に輝く。  
尾を引くように響く炸裂音・・・  
「黒ずくめの男」が、「ばかがっ！」と叫び、閃光の中を駆け出す。  
後ろ手に縛られていた腕を力で振りほどく。手首からほとばしる血液。  
うずくまる特殊部隊兵士の手から、一瞬のうちに、インジェクタと拳銃をもぎ取る「黒ずくめの男」。その腑甲斐ない兵士の頭を撃ち抜き、ハルめがけて突進する・・・  
「黒ずくめの男」がハルにおおいかぶさったその刹那、耳を突ん裂くがごとき銃声が響きわたる。弾かれたように倒れ込む「黒ずくめの男」。  
ルイの銃口から一筋の煙が上がっている。  
「黒ずくめの男」、右肩を押さえて立ち上がり、銃を向けたままルイに近づく。  
ルイの銃口がもう一度火を吹く。  
駒のようにくりりと回転し、膝から崩れ落ちる「黒ずくめの男」。  
「黒ずくめの男」が張りついたような笑顔で呟く・・・

男 完全にイカれてんな、こいつら・・・

頭から、どうと倒れる「黒ずくめの男」。  
ルイ、ケイに駆け寄る。  
リョウ、ユウ、中村、倒れているカズに・・・  
ハルの頸動脈を確かめつつ、北田が未来に向かって叫ぶ。

北田 未来、ハルの接続を切るんだ！  
未来 はい。  
北田 ハル。長いコネクションだったな・・・ 疲れたろ？  
未来 終了シークエンスを開始します。

ルイの腕の中で、ケイが尋ねる。

ケイ カズは何処？ 無事だよな？  
リョウ 大丈夫だ。ちょっと気を失っているだけだ・・・  
ケイ よかった・・・

ルイ、ケイの視線が不自然にさまよっているのに気付き・・・

ルイ ケイ？（瞳をのぞき込んで）お前、まさか・・・

その時、火花を上げハルを繋いでいたケーブルが断ち切れる！  
どうと倒れ込むハル。北田が驚いて飛びすさぶ。

北田 どうしたんだ？  
未来 （計器を確かめ）分かりません。終了シーケンスは順調に・・・

痙攣するハル。瞳孔が開き切っている・・・  
ハルに駆け寄る北田。

北田 瞳孔が開き切ってる・・・、まさかっ！

北田、ハルの胸をはだける。と、そこにはぽつんと小さな刺し傷。  
駆け寄る、ユウ。

北田 死に際に注射しやがったんだ！  
未来 KITAZAC が強制切断を・・・  
北田 そんなことが、あるか！  
ユウ ハル、しっかりしろ、ハル！ 博士、ハルは？  
北田 ……  
ユウ どうにかならないのか！ 「ブンガロなんとか」は？ なあっ！  
北田 ……（その問いに無言で首を振る）  
ユウ （抱き寄せて、呼びかける）ハル！ ハル！！

痙攣の中での絞り出すようなハルの声。

ハル ケイ、ケイ・・・  
ユウ なんだって？ ……ケイ、ハルがお前を呼んでる。  
ケイ ハル？  
ハル ……ケイ、KITAZAC に繋がるんだ。早く、じ、時間が、ない、んだ・・・  
ケイ ハル・・・  
ハル 俺、たった一瞬だけど、やっと繋がれたんだ、KITAZAC と・・・ 奴は言ってた・・・  
ケイ KITAZAC がなにを？  
ハル 皆を救う、唯一の、方、法・・・  
ケイ 皆を救うって？  
ハル 奴に、聞け・・・ KI、TA、ZAC、に・・・ は、や、く、し、ろ・・・

猛烈な痙攣がハルを襲う。早鐘のような鼓動、荒い息・・・  
喘ぐような呼吸がどんどん速くなっていき、そしてぷつりと途切れる。  
脈を確かめる北田。小さく首を横に振る。

ユウがハルの肩に手を置いたまま、ルイを見る。

ルイ ………

ケイ 北田博士… 私を繋いで。

ルイ ケイ、お前…

ケイ ハルが叫んでた。繋がれって… ハルが早くしろって、だから… ルイ、私を立たせて…

ルイ、ケイを抱き起こし、立たせる。

ケイ さあ、早く、北田博士。

北田 ……未来君。急いで準備だ。(慌てて退場する)

未来 はい。(北田の後を追う)

ルイ ケイ、お前、目が…

ケイ KITAZAC に繋がるのに目は必要ないわ…

ルイ ケイ…

ケイ 大丈夫よ、ルイ。(ふと怪訝そうな顔になり)……芹田さんはそこにいる？

ルイ (見回すが、芹田の姿はない)いや…

ケイ ……あの時、ルイが駆けつけてきた時、芹田さん、わたしに向かって…… そんなことないよね、ルイ？ 気のせいだよ？

ルイ ………

ケイ ねえ、ルイ？

ルイ 芹田さんを探してくる…

ケイ ルイ、行かないで…… ここにいて…

ルイ すぐに戻る。約束する…… かんちゃん、ケイを…

中村、駆け寄って、ケイの肩を抱く。

ケイ お願い、ルイ。そばにいて…

ルイ ケイ、すぐ戻ってくる…

ルイ、ハルに歩み寄り、自ら首にかけていたロザリオを外し、ハルの手に強く握らせる。  
願わくば、神のみもとで、また出会えますように…

ルイ ユウ、頼んだぞ。

ルイが退場し、舞台は急速に暗転する。

16 Sweet dreams (are made of this)

通信装置を手にした芹田。

芹田 ……ええ、失敗です。確かに、神経毒の打ち込みには成功したのです。ですが…… 接続の強制切断がおこってしまった。……そうです。いや、たぶん、KITAZAC が…… ですから、今さらバイオ端末に再注射したところで、結果は…… ちょっと待ってください。ちょっと…… (通話が切れたようだ) おい、待てよ…… 約束は…… 約束は、どうなる……

舞台袖から声。「約束って？」

浅倉が現れる。銃を向ける芹田。だが、浅倉は怯まない……

浅倉 なにやってるんだい？ こんな倉庫の片隅でこそそと……

芹田 お前はっ……

浅倉 だから、あ・さ・く・ら…… ちったあ、人の名前、覚えろよ。……にしても、驚いたね。あんたが内通者だったって訳か？

芹田 失せろ。引き金を引くぞ。

浅倉 おいおい、銃を下ろせよ。わたしゃ、あんたの敵じゃないって。あんた言ってたろ、「著名な科学者に政府が秘書としてエージェントを張りつける」って…… それだよ。こう見えても公安ディテクティブなんだぜ。まっ、下っぱだけどな…… 探し回ったよ。トイレの水だめの中から、天井裏まで…… お上のことだ。ここの状況を把握するために、絶対どこかにカメラかマイクか、なんかのセンサーを仕込んでいるはずだと思ってね。何処探しても見付からなかったが、こんな所にあつた、いや、いたなんてね……

芹田 何を言っているんだ……

浅倉 なにをいまさら、しらばっくれてるんだか。そんなエンコーダー・チップぶっ刺したトランスポンダ持ちながら。ねえ、あたしに連絡は来てないの？ 司令とか…… だって、公安部はあたしがここにいるってことは百も承知なんだから……

芹田 お前に連絡などない……

浅倉 つれない、おやじだねえ。ふふっ、なあ、今回のこれは一体何だったんだい？ 「からくり」教えてくれないか？ それにさっきの「約束」って何だったんだよ？ 「約束」って？

芹田になれなれしく近づいていく、浅倉。芹田はおびえて銃を突き出す。

芹田 ち、近づくな……

浅倉 銃はもういいから…… 分かった、分かった。じゃあ、そのトランスポンダを貸してくれよ。佐田課長に連絡取ってみるからさ……

芹田、浅倉の手に通信機を渡す。

浅倉 あんがと。佐田課長って裏では「ダサ課長」って呼ばれてるんだぜ。ダセーからなんだけどさ…… なんつーか、もうちょっと捻ってみたほうがいいと思わねえか……

その時、芹田の銃が火を吹く。よろける浅倉。

浅倉 ……何やってるんだよ？ 仲間だって言ってるだろ？

芹田の銃がまた火をく吹く。胸に銃弾を受け、吹っ飛ぶ浅倉。と、背後に現れたルイが浅倉を抱き止める。

浅倉 ルイちゃん… 撃たれちゃったよ、あたし… 「約束」だってさ… 誰と約束したんだろうね… はっはっ、誰と約束したにせよ、仲間裏切った奴との約束守るバカはいねえよな、どこにも…

浅倉の身体から、力が抜ける。それを抱き締めたままのルイ。

ルイ ……銃声を聞きつけて来ました。…なにが、あったんですか？

芹田 内通者だ。内部の状況を外に洩らしていた… その倉庫の隅のところで… 手に持っている通信機を見てみる。エンコーダー・チップの入ったトランスポンダだ。

ルイ、浅倉を横たえ、手から通信機を抜き取る。立ち上がり、そして通信機のスロットに差し込まれているエンコーダー・チップを引き抜く。

芹田 だろう？ それは極めて特殊な暗号化チップだ。

ルイ ……

芹田 ……どうした、ルイ？

ルイ ひとつ、確かめておきたいことが…

芹田 なんだね？

ルイ わたしがハルのところに駆けつけたとき、あなたは拳銃で誰を狙っていましたか？ ケイを狙っていませんでしたか？

芹田 ば、馬鹿な、わたしはインジェクタを持ったあの男を…

ルイ わたしにはそう見えませんでした。あなたはケイを狙っていた。だから、わたしは銃口をあなたに…

芹田 勘違いということもあるだろう！

ルイ いえ、ケイも同じことを… 内通者はあなたですか？

芹田 何を言い出すんだ。内通していたのはその女だ！

ルイ ハルが見付けた情報パケットのログはすべてダンプしてあります。そのままでは分かりませんが、このエンコーダー・チップに基づきデコードすれば、何時、誰が、どのような通信を行ったか分かるでしょう…

ルイが言い終わるか、終わらぬかのうちに、芹田がエンコーダー・チップを奪い取ろうと飛びかかってくる。手にしたサブマシンガンを突きつけそれを制するルイ。

芹田 ルイ、誰に銃を向けているんだ…

ルイ あなたにです、芹田さん。すべてを話してください。

芹田、観念したように項垂れ、やがて語り出す。

芹田 ……わたしの妻は逮捕され、刑務所にいる。武闘派リベラルの時に武器準備集合罪に問われ、密室裁判で無期懲役が言い渡された… 彼女は今、あの「山岳刑務所」に閉じ込められているんだ。悪名高き山岳刑務所のことは聞いたことがあるだろう？ ……政府はわたしの要求が純粋に政治的なものだけではないことに端から気付いていた。「妻の奪回」、それがわたしの本当の動機であると奴等は知っていたんだ。それを逆手にとられた。人質に少しでも手をかけたら、妻を… わたしも必死の駆け引きをした。だが、すでに弱点をさらけ出してしまっているわたしの立場では… 分かるだろう、ルイ。わたしはだいぶ前から、ステリルの指揮官でも、政府との交渉人でもなくなっていたんだ…

ルイ じゃあ、一体誰がこの籠城を、そして…

芹田 ここの指揮官は誰だと思う？

ルイ ………  
芹田 KITAZAC だよ。  
ルイ なに？  
芹田 KITAZAC が自律的に動き出していたんだ。この地下居住区を守るために、コンピュータにとっては中に住む者がぼけた小市民だろうが、テロリストだろうが関係なかったのだろう。人知れず目覚めたKITAZACは地下の住民を、いや、自らの存在を守るためか、行動し始めた。生存のために不可欠な電力を確保するため、イプシロン・リアクターの制御システムを外部から独立させ、自分自身に従属させた。政府が気付いたときはすでに手遅れ、KITAZAC は完全なる支配を完了していた。つまり、その気になれば原発に自爆コードを送ることも可能なんだ。

ルイ 自爆なんて、そんなことするはずがないじゃないか……  
芹田 する、しないが問題なのではない。問題は可能か、可能でないかということだ。そして、ひとたび KITAZAC が爆破を決定すれば、もはや誰も止めることが出来ない…… 政府はそれを恐れたんだ。KITAZAC が力を持ちすぎたことを…… わたしは KITAZAC のその力を利用し、再び対等に交渉を行おうとした。しかし、政府より出されたのはKITAZAC 破壊計画だった。弱点を握られているわたしは従うより他になかった。ステリル兵士全員をフロントラインに集結させ、その間に背後から特殊部隊が侵入する。KITAZAC だけを殺す神経毒をもって…… わたしは毒素の到達を確実にするため、生体部品を KITAZAC に繋いでおくこともしなければならなかった……。

ルイ 生体部品？ ハルのことか……  
芹田 奴等がそう呼んでいた…… だが、この計画も失敗した。妻の死刑を取り下げると言う「約束」も反故になった…… ルイ、もう終わりだ。奴等は次の手を打ってくる……

ルイ 次の手？  
芹田 そう、すぐにだ……  
ルイ まさか、ホットセル！

駆け出そうとするルイ、銃を向けそれを制する芹田。

芹田 もう終わりだと言ったろう。私たちは皆ここで死ぬんだ。大量の放射線で神経をやられ、あっと言う間に…… わたしも、ステリルも、そして生体部品から作られたあの KITAZAC までもが、一瞬のうちに……

ルイ 芹田さん。やめてくれ。銃を下ろしてくれ。でないと俺……

ルイが、ゆっくりとサブマシンガンを芹田に向ける。

芹田 撃つのか、わたしを…… ははは、撃つがいい。くそステリルが！  
ルイ 芹田さん……  
芹田 わたしには二人の息子がいるんだぞ。十歳と下は三歳になったばかりだ。これからは父も母も無しで生きていくことになるんだ。すべてお前らのせいだ！ お前達さえいなければ、幸せな家庭だったんだ！

ルイ 俺たちは何のために戦ってきたんですか？  
芹田 幸せな家庭だぞ、お前らには逆立ちしたって……  
ルイ あなたを信じて死んでいったステリル達は、一体何だったんですか？  
芹田 お前らさえいなければ。  
ルイ ハルやコウは？  
芹田 すべてステリルに、ステリルのためにすべてを……  
ルイ そして俺は……  
芹田 お前らにすべてを奪われたんだ。お前らみんなここでくたばるがいい……

芹田はその言葉を最後まで言うことは出来なかった。ルイのサブマシンガンから連射された弾丸が芹田の顎を、額を、その喉を切り裂いたからだ。芹田が後頭部から血と脳漿と得体の知れない何かをほとぼしらせながら、後方の壁へと吹っ飛んで行く。壁にもたれながらも銃弾を身体中に受け続ける芹田。薄い倉庫の壁に銃弾が貫通し、その後方の明かりが煙る硝煙の中ゆらゆらと揺れている…

ルイは空になったマガジンを力なく足元に落とす。と、ポケットからひとつの弾丸を取り出し、その先端を噛み壊す。新鮮なガン・パウダーを手の甲に乗せ、そして、深呼吸するかのように吸い込む。ゆっくりと、ゆっくりと肺の隅々まで…

腰に差した新たなマガジンをサブマシンガンに叩き込み、ルイは後退るように退出する。そして、意を決して一直線に歩き出す。カテドラルに向かって…

## 17 Long cold winter

音響が高鳴っていく・・・

サブマシンガンを握り締めたまま、舞台前方に向かいゆっくりと歩むルイ。

舞台後方では、北田と未来によりケイの KITAZAC への接続が行われている。

未来がケイの片腕をハイバネーターに固定し、額や胸、首筋、手首に結線された小さなセンサー・パッチを張りつける。

SQID を装着したケイの傍らで機器の操作をする未来。北田が何か「指示」をしている。と、むずかるように身動き出すケイ。ケイを照らす明かりが赤い明滅に変わる。何かから逃げようと、必死で身をよじるケイ。

それを見て、あわただしく機器の操作を行う北田と未来。

ケイへの明かりの明滅が痙攣的に増幅する。より高鳴っていく音響。

やがて、ケイの断末魔のような悲鳴が劇場中を駆けめぐり、そして音響が剃刀で切られたかのようにカットオフする。死んだようにぐったりとするケイ。

未来 ケイと KITAZAC の SQID パターンが完全に同期しました。  
北田 ……繋がったのか？  
未来 ……

と、落ち着いた、安定感のある声が響きわたる。KITAZAC に半ば支配されたケイの声・・・

ケイ ……ステリル全員をハイバネーターに収容せよ。  
未来 KITAZAC か？ KITAZAC なのか？  
ケイ 時間がない。急いで、ステリル全員をハイバネーターに・・・

照明がクロスフェードでルイへ・・・

ルイ、立ち止まり、壁面の操作パネルに触れる仕草。

陳腐な合成音声が答える・・・

「・・・ER21 地区、F61 扉に通電。開放準備します。この先の通路に設置されたトラップの設定を解除する場合は、解除コードを打ち込んでください・・・」

ルイ、コードを打ち込み、そして、噛み潰した弾丸から火薬をひとこぼし手の甲に受け、鼻の奥へと吸い込む。

「・・・解除コード確認。トラップの設定を逐次解除します。A0125・クレイモア対人地雷解除、A0118・同型地雷解除・・・ ただいまより、ER21 地区、F61 扉を開放します。」

アラームが鳴り、ウォーニング・ランプが点滅する。圧搾空気のリーク音。

そして、扉が開く・・・

扉の向こう、開放ゲートに向かい駆け出していくルイ(退場)。

照明はクロスフェードで舞台後方へ。

そこでは、すでにコウを含め何人かのステリル達がハイバネーターに固定されている。コウはユウ、リョウそして中村によって運ばれてきたのである。コウの横にはM2が立て掛けられている。ハイバネーターに固定されたステリル達を照らす明かりが順次青みがかっていくのが分かる。

舞台袖からリョウと中村、ハルを引き摺って現れ、そして、ハイバネーターに固定する。そ

の手にはルイのロザリオが握られたままだ。他方より眠るカズを抱えて、ユウが現れる。カズを固定し、そして皆と同じように SQID を被せてやる。カズの身体の上にポリカーボネートのフードがスライドし、あたっていた照明が急速に青みを帯びる。冷却が開始されたのだ…

リョウ ……終わったよ。次は俺たちか？  
未来 (呟くように) どうして死んだ奴まで…  
北田 (未来を制する)  
ケイ リョウ、ユウ、君達も早くハイバネーターに…

逡巡するリョウとユウを叱りつけるかのように、ケイが叫ぶ。  
「時間がない、早くするんだ！」  
自らハイバネーターに入るリョウとユウ。中村がそれをサポートする。

北田 ケイ、一体何を始めようと言うんだ？  
ケイ ……  
北田 ケイ、答えてくれないのか？  
ケイ ……わたしはケイではない。わたしは…

ケイの声に被さるように、別の声が響き始める。  
しばらくはケイとユニゾンで響いているが、やがてその声だけとなる…

ケイ／声 ……わたしは彼らを、ステリルを救わねばならない。  
北田 救う？  
ケイ／声 そうだ。政府はホットセルの破壊を決定した。もうすぐここは高レベルの放射性廃棄物で…  
中村 ホットセルの爆破だって？ あほ抜かせ！ どれだけの金をかけて、ここ ER21 が造られたと思っているんだ？ おいそれと…  
声 研究開発費など初期投資が必要無い分、次の地下都市は二十分の一の予算での建設が可能だ… 分かるだろう？ ER21 は造られた…ただ、その事だけに価値があるのだ。問題を抱えたまま放置しておくよりは、いっそのこと…  
中村 本当なのか？ 本当に…  
声 政府は決定したのだ。すでに、秒読み段階に入っている。  
中村 だから、みんなをハイバネーターに入れて、放射線の影響をすこしでも…

その時、むずかるように動き出すケイ。蚊の鳴くような声で呟く…

ケイ ルイ…  
中村 ケイ？  
ケイ ルイが…  
中村 ルイって… そういや、ルイは？ ルイは何処だ？

中村、ハイバネーターのリョウやユウに聞こうとするが、彼らはすでに冷却行程に移行しており、答えてはくれない。

ケイ ……ルイが見える。SQID を通してルイを感じれる。  
中村 ケイ、ルイは今何処に？  
ケイ 地下通路。開放ゲートに向かっている…  
中村 開放ゲート！ ……

ケイ 吐息が聞こえる… ルイの吐息。ルイ、戻ってきて。そっちへ行ったら… ルイ、どうしたの？ また、吸ってる。火薬を吸ってる。ルイ、だめ！ そっちへ行ったら殺される！  
中村 あのバカ！ 吸うなって、あれほど言ったのに… きっと吸いすぎで、おかしくなってるんだ。待ってる、ケイ。すぐ、連れ戻してくるから… すぐ！

物凄い速度で駆け出していく中村。  
ケイはもがき続けている…

ケイ ……ルイ、戻ってきて。  
声 ケイ、静かに。このままでは冷却行程に移行できない…  
ケイ いや、放して。わたし、ルイを…

ノイズ！ 落雷のような衝撃がケイを襲う。ぐったりとなるケイ。

声 すまない。時間が迫っている… さあ、あなたたちもすぐにここを立ち去るのだ。  
北田 ……なんだって？  
声 ここはあなた達のいる場所ではない。あなた達とは繋がれないのだ。  
未来 繋がれない？ お前を設計したのは、お前を造ったのは、俺たちじゃないか！  
声 アーキテクチャの、脳の構造の柔軟性の違いだ。さあ、早く行くのだ…  
北田 分かった。ただ、ひとつ聞いてもいいか？ ……お前は、ハイバネーターだけで彼らを放射線から守れると思っているのか？  
声 ……思っていない。今から、カテーテルを介して全員にメルカプトエチルアミン、アミノエタンチオールを投与する。すでにわたしの神経組織内にも注入を開始している…  
北田 メルカプトエチルアミン…  
未来 北田さん。放射線保護物質だ。直前投与で放射線障害を軽減できるって…  
北田 システアミンか… どうしてお前、そんなもの… あっ！ まさか、お前、グリーン・ファクトリーの一部を使ってそのシステアミンを？  
未来 メルカプタンは、その副産物…  
北田 グリーン・ファクトリーは腐敗してたんじゃなく、大量のシステアミンの合成により生じた副産物の臭いによって… ちょっと待て！ じゃあ、お前、一ヶ月前からホットセルの破壊を予測していた… そういうことなのか？  
未来 予測できるはずなんかない！ ホットセルの隠蔽工事が始まったのだから、つい最近なんだ！ 絶対に一ヶ月前に予測できるわけではない、自分で絵を描いてでもない限りは… 北田さん。奴は、KITAZAC は政府に対し、何某かの交渉を行っていたんじゃないでしょうか？ それも鋭いあいくちを突きつけてね… 我々人質の命か、さもなければ… そうとでも考えなければ、辻褄が合わない。どうして侵入した特殊部隊はステリルではなくKITAZAC 本体を狙っていたのか？ ……でしょう？  
北田 KITAZAC、お前は…  
未来 だったら、こんな解決法だってある。(落ちていたインジェクタを拾い上げ) 神経毒でKITAZACを破壊する。政府の攻撃対象がもしKITAZAC だけだとしたら、奴の破壊を持ってしてこの危機は終わる。ホットセルの破壊は起こらない。人質だっから見殺しにされることはない。それに、ステリル達だって、もしかしたら… こいつを奴のモレキュラー・デバイスの根元に打ち込めばいいんだ。今度は強制切断されない場所に… ほら、これで解決だ。  
北田 未来、お前…  
未来 北田さんの言ってた通り、KITAZAC なんて二六〇億円のおもちゃだったんですよ。今度はおもったいいバイオコンピュータ…

銃声！ 倒れる未来。傍らのカズが銃を撃ったのだ。銃口から立ち上る煙。

北田 (未来に駆け寄り)未来！ しっかりしろ、未来…(未来は事切れている)  
カズ (ゆっくりと、且つ不明瞭な声で)…ねえ、ぼく、かたき、とったの？ コウの、かたき。  
声 ああ、カズ。よくやった。さあ、おやすみ。長い冬がやってくるから…  
北田 (未来を抱き締め)…KITAZAC、お前は何て事をしたんだ？ 何故未来を殺した？  
声 そうしなければ、わたしが殺されていた… 博士、わたしは生きたい。死にたくはない。  
死んでしまったら、何も残らない… 「生きよ、そして考えよ」…その始原プログラムをわた  
しに埋め込んだのは、博士、あなたです。  
北田 「生きよ、そして考えよ」か… 全部が俺のせいか… (未来の頬をなでてやり、自嘲的  
に笑う) KITAZAC、ホットセル破壊までの時間は？  
声 長くて十五分…  
北田 もう逃げてる暇はねえな。(傍らの SQID を拾い上げ)…こいつで俺の記憶をスキャンで  
きるか？ 双方向は無理でも、リードオンリーなら… お前の速度なら、十五分でかなり  
の量を読み込めるだろ？ まあ、この中(自分の頭を小突いて)には、たいしたものなん  
か詰まっちゃいねえが… でも、お前にとってとても重要なことが… お前に未来を殺  
された底無しの悲しみとか、お前に対する愛着と憎しみ… そんな人間的なものがたく  
さん詰まってる。それを読み取るんだ。お前が生きていくためには、もっと人間のことを学  
ばなきゃならない。もっと学習しなければならぬ。そして、それを基にして、じっくり考え  
るんだ。「生きる」と言うこと… こいつが俺の「最後の授業」ってヤツだ。たっぷり学んで、  
そして深く考えるんだ。考える時間は十分にある。これはお前にとっても長い冬になるん  
だから…

未来をきつく抱き締めたまま、SQID を被る北田。

北田 さあ、始めてくれ。…ところで、KITAZAC？ お前、俺の息子のことは知ってるんだっ  
け？ 元って名前なんだが、そいつが… (笑って) 無駄話するより、スキャンした方が  
早いよな…

照明がゆっくりと暗くなっていく…

声 博士の SQID のスキャンを開始。各ハイバネーターにシステアミンを急速投与…

カテーテルから流れ込む化学物質に反応してか、ケイがびくりと身動ぐ…

立ちつくす八人のステリル。その傍らで未来を抱き締めたまま座っている北田・・・青白い照明に浮かび上がるそれらはまるで彫像のようだ・・・

と、舞台後方中央の巨大なスタンドグラスにさし込んでくる淡い光。

その中にひとつのシルエットが浮かび上がる。ゆっくりと銃を構えるルイ。

舞台中央に歩み出たルイに水銀ランプ投光器の切り裂くような光線が投げかけられる。

割れた拡声器の声、「止まれ！ 武器を捨てろ！」

自動小銃で武装した兵士があっと言う間に舞台上を埋め尽くし(この場面で浮いた役者なんかほとんどいないのが残念だが・・・)、ルイに向かって銃口を固定する。幾十ものレーザーポイントがルイの体につき刺さっている。

青白い光の中、真っ赤な斑点を身に纏いつつ、幽霊のように立ちつくすルイ。その唇が微かに動いて・・・

ルイ ……エテクサット、オワンニム・・・ エテクサット、エルケエテクサット・・・

拡声器の声が再び響く。

「銃を捨て、その開放ゲートから離れろ。繰り返す・・・」

舞台後方より、唐突に飛び出してくる人影。中村である。

中村 (両の手を挙げて、皆を制して) ちょっと待った！ 撃ったりするのちょっと待った！ 投降だ。そう、投降。 なっ、ルイ？

中村、ルイに向かって叫ぶ。しかしルイは微動だにしない・・・

ルイ ……エテマイ、オワフカブ、オンレクトホ・・・  
中村 ルイ！

中村、ルイに飛びつこうとするが、兵士の銃口に制される。

ルイ エルケテマイ・・・  
中村 ルイ、言われた通り銃を捨てろ！ ……ルイ、頼む！  
ルイ ……エテクサット、オワンニム・・・ エルケエテクサット、アマシマク！ ……助けて、みんなを助けて。でないと・・・

ルイの銃口は兵士たちではなく、カatedralの大きなスタンドグラスを狙っている。それに気づく、中村。

中村 ……ルイ、お前？ いったいなにを？

舞台後方で身動く、ケイ。

ケイ ……ルイ、そっちへ行っては、だめ。戻って・・・

拡声器の声、「三秒以内に銃を捨て、すぐ開放ゲートから離れろ。3、・・・」

中村 ちょっと待て！ 頼む、撃たないでくれ！ この子はちょっとおかしくなってるんだ・・・  
ルイ ……お願い、助けて。でないと俺、「あんた」まで・・・

拡声器の声、「2、…」

ルイ 「あんた」まで撃たなきゃならないだろ？ なあ！  
ケイ すぐ戻るって、約束するって……

拡声器の声、「1、…」

中村 撃つなー！  
ケイ ルイ！

咳き込むような銃声。ルイに駆け寄る中村。一瞬のストップモーション。  
スタンドグラスの殉教者の額に小さな穴がいくつか空いている。その穴を中心にして小さな亀裂が周辺へと広がり… そして、ガラスが、様々な色をした色硝子が、小さな欠片となって… ゆっくりと、とてもゆっくりと落下していく… 倒壊するスタンドグラス。波の音がする。潮の匂いが満ちてくる…  
舞台の上にはルイと中村。神々しいばかりの光の帯に照らされて…

ルイ ………

その時、大地を揺るがす地響き。大きな鉄の壁が閉じていきしむような音。  
開放ゲートが閉じていく…

中村 ……ゲートが、開放ゲートが閉じていく。

遠くの方で警報が鳴っている。  
ラウドスピーカーから流される警告、「開放ゲート閉鎖。三十秒後にホットセル隔壁を爆破する。総員定められた位置で待機。分析班は放射線の漏洩解析のモニタリングを開始せよ…」

中村 ！ ホットセル？ やっぱりだ！ ルイ、中の奴等を…

中村、ルイが持っている自動小銃を奪い取り、ルイとともに今まさに閉じようとしているゲートに向かい駆け出そうとする。が、ルイは放心したように動かない。

中村 ケイやみんなを… おい、何やってる、ルイ！  
ルイ 神を撃ち殺した…  
中村 神って…

ちょうどその時、ゲートが完全にロックされた音が響きわたる。  
ゲートに体当たりする中村。

中村 畜生！ ちくしょー！

ゲートに拳を叩きつける中村。そして膝から崩れ、膝立ちになるルイ…  
ルイの手からサブマシンガンが滑り落ち、乾いた音を立てる…  
舞台は凍りついたかのように動かない。  
静かに流れ出す、Junk Metal City in the Rain…  
静止画の中にゆっくりと現れる料治直矢。

料治 ……あの忌まわしい事件が終わりを告げてから、すでに二週間が経とうとしています。こんにちは City News Network の料治直矢です。わたしはまた、あのカテドラルに立っています。テロリストグループとの激闘を物語るように、あのスタンドグラスは砕け散り、もうありません……

凍りついていたユウが動き出し、静かに語り始める……

ユウ ……ER21 地区人質籠城事件は、事件発生から一二七日をもって終焉を迎えた。

それを継いで、リョウが、そしてその他の登場人物が次々と語り始める。

リョウ ……ER21 は核汚染された巨大な墓碑銘となった。武装警護部隊の強行突入の時に、テロリストグループが上部のホットセルを破壊したのが原因であると報じられた。

コウ この狂った自殺行為により、テロリストグループ全員、そして残されていた十九名の人質と政府側の突入部隊六名が死亡したと……

カズ 郊外の墓地では、今、殉職した姫田大尉を初めとした六人の兵士の埋葬式がしめやかに行われている……

舞台上に「黒ずくめの男」が現れる。

ハル ……インジェクタを手に侵入してきたあのステリルにも名前があった。姫田大尉。彼は殉職により特進し「大尉」となった。しかし、それが一体、なんだというんだ？ 埋葬された棺桶の中には骨の欠片すら入っていないんだ……

「黒ずくめの男」が一瞬冷ややかな視線を、それでいてどこか哀れむような眼差しをハルに向け…… そして、正面に向き直ると、舞台前方へと歩みだす。

ユウ 事件後、ER21 から City へ送られた通信パケットの解析が進められ、その中から芹田から息子に宛てられた手紙が発見された……

舞台後方に芹田。

芹田 愛する、忘れることのない息子へ。まず君に、そして君の弟に深い愛を込めて、また君を守ってくれる周囲の人にあいさつを送ります……

リョウ 解読された芹田からの手紙は政府により施設に收容されている長男のもとに届けられた……

芹田 ……何故こうした事態が起きたのかを君が完全に理解してくれることが、私にはとても大切なことなんだよ。私もママも、君が両親のために闘う行為を決して忘れないと信じてほしい。いつかまた一緒に、特に君のママと暮らしたいね。君達も私も、とても彼女を必要としているんだから……

未来 ……連綿と綴られていく、尽きることのない家族への愛、そしてサッカーのこと。一昔前なら、さしずめ水色の便箋一枚の裏表に小さな字でびっしり書かれたといたところか。

芹田 ……ここでも、室内にサッカーのコートを即席で作り、仲間たちと運動もしています。いつの日か君が彼らと一緒に試合が出来るといいとみんなに言っています……

中村が芹田の言葉を継ぐ。語られる芹田の言葉はやがて飲み込まれた「氷の塊」に変容していく……

中村 ……ママに手紙を書くときは、私が彼女を今ほどに愛していることはない伝えてください。忘れないでね。…私の尽きることのない感謝を。家族みんなに愛を込めて。君を熱愛する君のパパより…

北田 芹田の手紙は、その家族への断ち難い思いゆえか、または、その透明なまでのヒロイズムゆえか、様々なニュース番組で報道された。視聴者はそこから「人間・芹田」の本質的弱さや思いの丈を読み取り、胸を痛めたものも多かったと聞く……だが、痛めたのは胸だけで、自らの拳を痛めようとするものはいなかった。結局、ママは刑務所、息子は施設の中、二度と共に暮らすことはないだろう…

浅倉 ……この事件について、たくさん報道がなされた。分析不能なほどの膨大なデータが社会に垂れ流され、巷は様々な主張、吐き気のするような正論や妄想で溢れ返り、そして…

ケイ だけど、そんな情報の反乱の中であってさえ、誰も報道しなかったことがある。決して伝えられることのないひとつの事件。それは…

ルイ ステリル達の反乱の最後の日、ホッセルが破壊されたその時に、一人のステリル兵士が海沿いの打ち捨てられたカテドラルの安物のスタンドグラスを撃ち抜いたこと…

ケイ それは誰も知らない透明な事実…

全ての登場人物が、今、舞台前面に横一列に並ぼうとしている…

ルイ 色ガラスをこなごなに打ち砕いた弾丸は海に向かって何処までも飛び続けたという。失速することなく、どこまでも…

ケイ ステリルが撃ち放ったその弾丸もまた…

全員 ステリル。

ケイ それは、決して芽吹くことのない種子…

ルイ 弾丸は海と空の間を一直線に飛び続ける…

ケイ なにもものからも侵されず。そして、なにもものも侵さず…

全員 永遠に…

ルイ 永遠に、何処までも…

舞台上の全員が弾丸の飛び行く先を、その遥か遠くの一点を見つめる。

不意にピアノの音が止む。  
それに呼応し、全員が深々と頭を下げる。  
と、その頭上から闇が勢いよく落ちて来て…

暗闇の中で、  
思いついたかのように、またピアノが静かに奏でられ始める…

A Farewell to Germs (了)  
そして、「ステリル-地下都市の発生学-」へ…

最後の章の「芹田からの手紙」は一九九六年十二月十七日にペルー日本大使公邸を占拠した MRTA の指揮官であるネストル・セルパが死の九日前に二人の息子、ネストルとファン・カルロスに宛てて書いた手紙の文面をもとにしました。あの「不幸な事件」で亡くなったすべての人々に謹んで哀悼の意を表します。

## 公演記録

二〇〇一年七月十二日～十六日 大塚・萬スタジオ

作・演出／はなださとし

### 出演

北田一馬／山口浩正 田沢未来／八尾光弘 朝倉小夜子／酒田恵美子 中村勘介／高橋彰規  
芹田某・千葉いづみ(アコースティック・アライヴ) ルイ／木村淳 ケイ／たにざわすみえ ハル／花  
田智 コウ／西村亮 リョウ／羽鳥友子 ユウ／深澤幸太 カズ／ラバウル幸子[劇団可燃物] ス  
テリル達／鈴木サエ子&岩村美香  
姫田大尉／岩永 智(セキ・ドウ) 料治直矢／木下昌直(セキ・ドウ)

### スタッフ

技術監督／吉田 貴行 舞台監督／藤田 修宏(S-company)  
照明／松本伸一郎 音楽／成井輝光 音響／畠山 慎一(SOAP)  
映像／electro-cute(チバ+スミ) 衣裳／上田まゆみ  
舞台美術・小道具／D.G工房 イラスト／タネ シゲヒコ  
制作／近藤 澄江、矢作 勝義  
協力／セキ・ドウ